イプソス教育モニター 2024

30カ国を対象とした
グローバルアドバイザー調査

2024年8月

はじめに

メディアはしばしば、ベビーブーマー世代は現代の若者の生活に無関心であるかのように報じます。しかし、私たちの調査によると、ベビーブーマー世代は他のどの世代よりも、今の日本で育つのは自分たちが幼かった頃よりも大変になったと回答する傾向が高いことがわかりました。

その他にも、認識と現実が必ずしも一致するわけではないことを示す調査結果が見られます。教育システムの質に対する認識は国によって大きく異なります。しかし、人々が自国の教育の質をどのように認識しているかということと、自国のPISAスコアとの間には相関関係はありません。

この相関関係の欠如は、保護者が学校を評価する際には、試験の成績だけでなく、しつけや全体的な幸福感や発育状態など、特に幼い子どもにとっては同等かそれ以上に重要視されることが多い点に重きを置くという、イプソスの調査結果も反映しているのかもしれません。

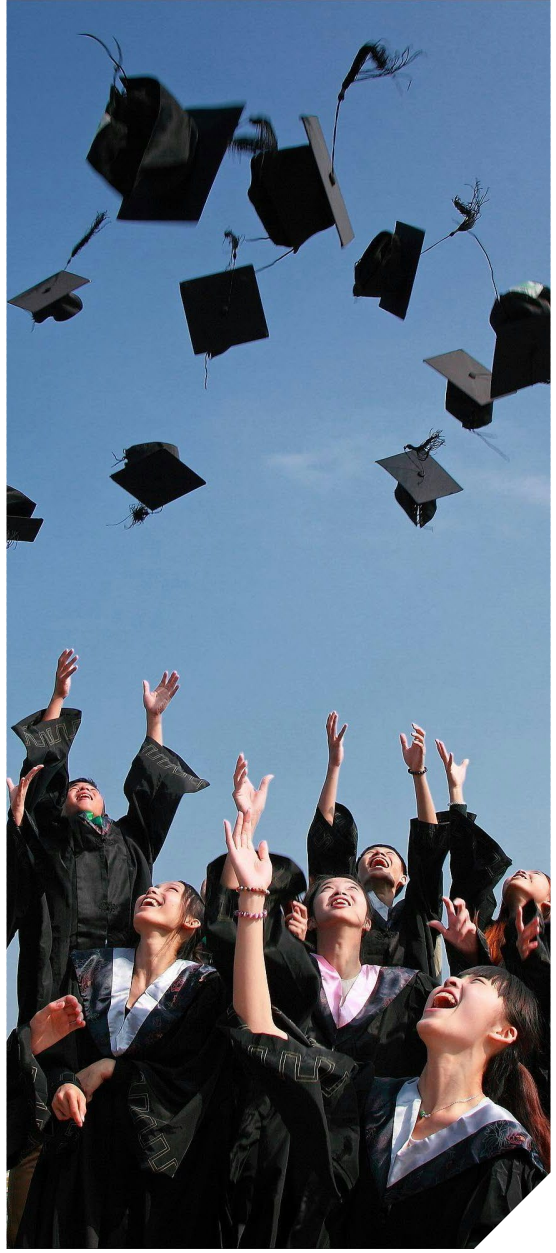
生成AIが爆発的に世間に浸透してから1年が経ち、AIに対する考え方はより二分されるようになりました。現在、3分の1強（36%）が学校でのChatGPTの使用を禁止すべきだと考えています。これは昨年の29%から増加しています。

この割合は、カナダ（52%）、フランス（51%）、オーストラリア（49%）では2人に1人に昇ります。一方、トルコ（24%）、タイ（22%）、日本（20%）では、学校でのChatGPTの禁止を支持する人は4人に1人未満です。

テクノロジーに対する反発はより広い範囲でも同様で、テクノロジーの進歩が将来教育にプラスの影響よりもマイナスの影響をもたらすと予測する人が 7 ポイント増加しました(25%)。

テクノロジーに関して注意が必要なもうひとつの分野はソーシャル メディアです。30カ国中29カ国で大多数が、学校内外を問わず14歳未満の児童のソーシャルメディアの使用を禁止することを支持しています。

一般的に、学校に通う子供を持つ保護者は、その他の人よりも教育の現状について肯定的な見方をしています。彼らは教育の質を良いと評価し、学校が学習者の多様性と違いを受け入れていることに同意し、テクノロジーの進歩を将来の教育にとってプラスであると捉える傾向があります。



© イプソス教育モニター 2024

目次

1 サマリー

2 認識の危険性

3 教育システムに対する意識

4 教育システムへの課題

5 教育とテクノロジー

6 教師に対する期待

7 付録

8 調査方法

© イプソス教育モニター 2024

サマリー

© Ipsos Education Monitor 2024

まとめ

33%

30カ国平均で33%が、自国の教育システムの質は良いと回答している。しかし意見は分かれており、36%は悪いと答えている。

63%

のベビーブーマー世代が、今の日本で育つのは自分たちが幼かった頃よりも大変になったと考えているのに対し、X世代では57%、ミレニアル世代では48%、Z世代では47%となっている。

4人に1人

が、テクノロジーの進歩は将来、教育にプラスの影響よりもマイナスの影響をもたらすと考え、この割合は昨年の18%から7ポイント増加した。

47%

が、自分が学生だった頃と比べて教育の質が悪くなったと回答している。ルーマニア、フランス、ハンガリーがこの意見を支持する傾向が強い。

29

調査対象となった30カ国のうち29カ国では、過半数が14歳未満の子どものソーシャルメディアの使用禁止を支持している。

29%

が、時代遅れのカリキュラムが自国の教育システムが直面している最大の課題であると考えている。
また、公的資金不足、教室の過密、教員教育の不十分さも上位にあがっている。

主な調査結果

ベビーブーマー世代は私たちが思っていた以上に共感的である

メディアではよく、ベビーブーマー世代は、最近の子供たちは楽な暮らしをしていると考えていると紹介されますが、実際には、ベビーブーマー世代は他のどの世代よりも、今の子どもの成長は自分たちが若かった頃よりも大変だと考える傾向があります。

認識は現実ではない

国民の3分の1（平均33%）は、自国の教育システムは優れていると考えていますが、認識されている教育の質とPISAの平均スコアの間にはほとんど相関関係がありません。

AIの利用をめぐる矛盾した感情

学校での AI の使用に関する意見はさらに分かれており、学校での ChatGPT の禁止を支持する人 (2023 年には 36% vs 29%) と反対する人 (2023 年には 37% vs 42%) が均等に分かれています。

スマートフォンに関する世代間の意見の相違

学校でのスマートフォン禁止を支持しているZ世代は3分の1強（36%）であるのに対し、ベビーブーマー世代では66%、X世代では58%、ミレニアル世代では53%となっています。しかし、ソーシャルメディアに関してはより多くの合意が得られており、世代を超えて大多数が14歳未満の子供によるソーシャルメディアの使用を禁止することに賛成しています。

教師に対する期待は国によって大きく異なる

タイでは大多数の人が宿題をみることは主に教師の責任であると考えています。しかし、インドネシアなどの他の国では、これは完全に親の仕事です。いじめに対処することや性教育を提供することについても、国によって大きな違いが見られます。

教育の課題は国によって大きく異なる

英国では、公的資金不足がトップ（40%）となっています。米国では、政治的または思想的偏見（33%）と安全と安心（31%）に関する懸念が集中しています。ルーマニアでは、時代遅れのカリキュラム（51%）と不十分な教員教育（45%）が最も多く挙げられる課題です。

© イプソス教育モニター 2024

認識の危険性

自国の学生のスキルを過度に厳しく採点する人々

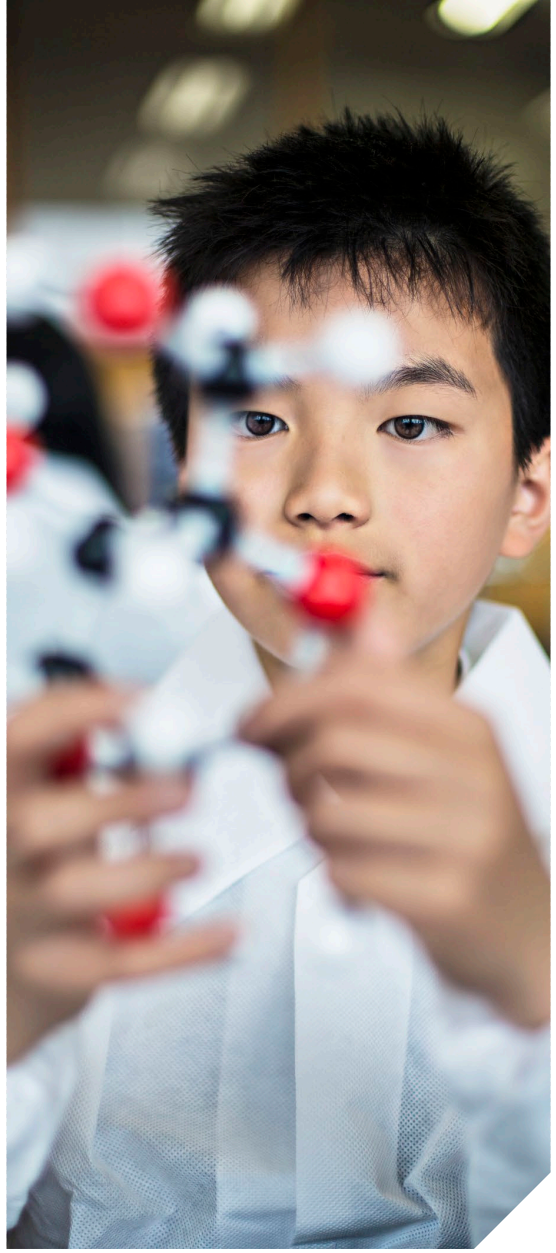
OECDの最新の国際学習到達度調査（PISA）報告書では、数学、読解力、科学の成績でシンガポール、日本、韓国がトップ3にランクされていますが、自分たちが好成績を収めていることを認識しているのはシンガポールの人々だけのようです。

シンガポール人の大多数は、自国の子供や若者のスキルは、数学（65%）、科学（64%）、読解（57%）において、同様の国々と比べて優れていると回答しています。シンガポールの生徒が3科目すべてにおいてPISAスコアで第1位であることからも、この国家的な自信は十分なものです。

一方、日本の人々は自国の子供や若者のスキルに対してより謙虚な見方をしています。数学（17%）、科学（16%）、読解（10%）については、PISAでシンガポールに次ぐ成績であったにもかかわらず、日本の若者の方が優れていると答えた人は少数派でした。これは、日本文化において謙虚さが重要であることを示唆しています。

韓国人も、日本人ほどではないにせよ、生徒の成績を厳しく採点する傾向があります。韓国はPISAランキングで3位ですが、子供や若者のスキルが他の同様の国の同世代よりも数学（44%）、科学（40%）、読解（33%）で優れていると考える人は半数未満でした。

これらの国々では、生徒へのプレッシャーは非常に大きく、PISA の成功は中核的な教育システムだけでなく、放課後の個人指導にも起因しています。このことは、優れた教育システムにおいて、生徒の幸福はどの程度重視されるべきかという問いを提起しています。



© イプソス教育モニター 2024

学校：偉大なる平等主義者

学習はそれ自体が価値あるものになり得る一方で、ほとんどの保護者は、学校が子供たちが将来バランスのとれた、就職できる大人になる手助けをしてくれることを期待する傾向にある。

学生は家族から特定の進路に進むようプレッシャーを感じるというのが固定観念かもしれませんが、現在学校に通っている子供を持つ保護者の3分の2強（30カ国平均で68%）は、キャリアに関する指導をすることは主に教師や学校の責任であると考えています。

教育は平等を生む大きな要因であると言われていますが、学校に通う子供を持つ親の56%は自国の教育システムが社会的不平等の緩和に貢献していると考えている一方、平均で39%は貢献していないと回答しています。

学校に通う子供を持つ親の間でも、自国の学校のカリキュラムが生徒の将来の職業への準備を十分に行っているかどうかについて意見が分かれており、52%が十分であると答え、46%が十分ではないと答えています。

多くの国では、大学進学は大人になるために必要なステップとみなされるようになりました。

しかし保護者は、高等教育にかかる高額になりがちな費用が報われると考えているのでしょうか？ 過半数の保護者 (60%) は、自国の高等教育や大学のシステムでは、学生たちは将来のキャリアのための準備が十分にできると考えていますが、37% はそうは思っていません。

© イプソス教育モニター 2024

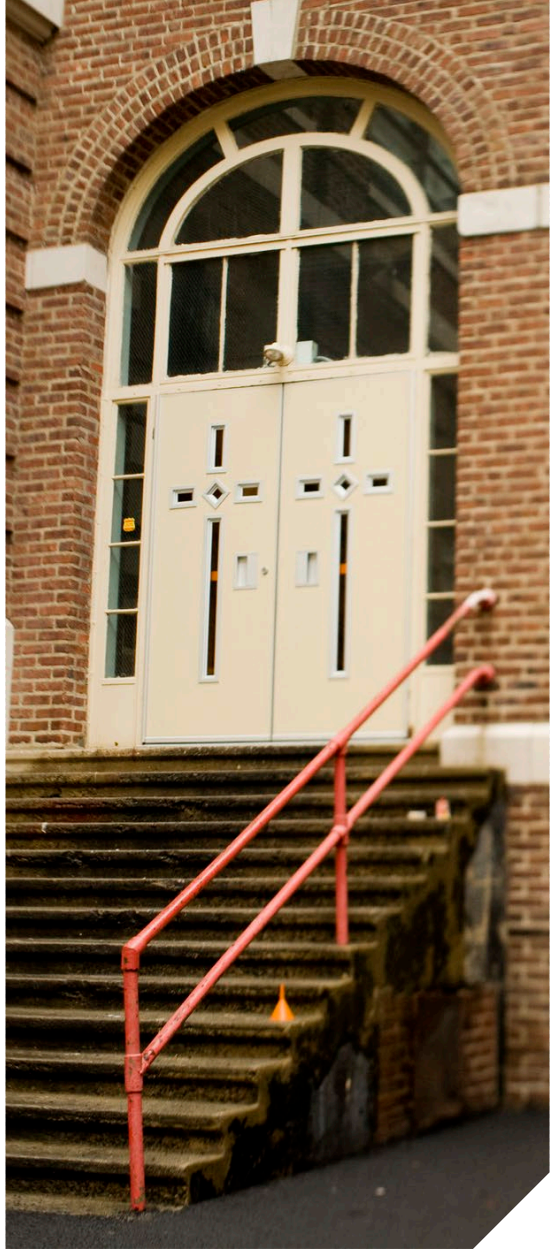
学校の役割

30カ国すべてで過半数が、基本的な読み書きの能力と理数系の基礎知識を教えることは主に教師と学校の責任であることに同意しているが、他のより重要な問題についてはコンセンサスが得られていない

意識が高まっているにもかかわらず、いじめは多くの生徒にとっていまだにつらい通過儀礼であり、5人に3人（30カ国平均で59%）はいじめに対処することは主に教師や学校の責任であると考えており、34%は主に親の責任だと考えています。いじめに対処する責任は教師や学校にあると答える人の割合が最も高いのは英国（73%）で、トルコでは38%でした。

性教育を提供することに関しても、国によって文化的な違いが多くあります。スウェーデンでは、性教育を提供することは教師/学校の主な責任であると考える人が過半数（61%）に上ります。一方、チリとメキシコでは、教師や学校の責任だと考える人は4人に1人未満（どちらも23%）で、性教育を提供することは主に親の責任だと考える人が最も多く（75%）、メキシコがトップでした。

多くの親が、宗教的価値観を教えることも保護者の役割であると考えており、67%が宗教は主に親の責任であると答え、19%が教師や学校の責任であると答えています。2カ国を除くすべての国（タイ 42%、日本 48%）で、宗教的価値観を教えることは主に親の役割であると考える人が多数派を占めています。



© イプソス教育モニター 2024

テクノロジーの使い方を学ぶ

良くも悪くも、テクノロジーは今や幼い頃から学生たちの日常生活の一部となっている。

若いミレニアル世代とZ世代は、携帯電話、コンピューター、ソーシャルメディアとともに育った最初のデジタルネイティブです。

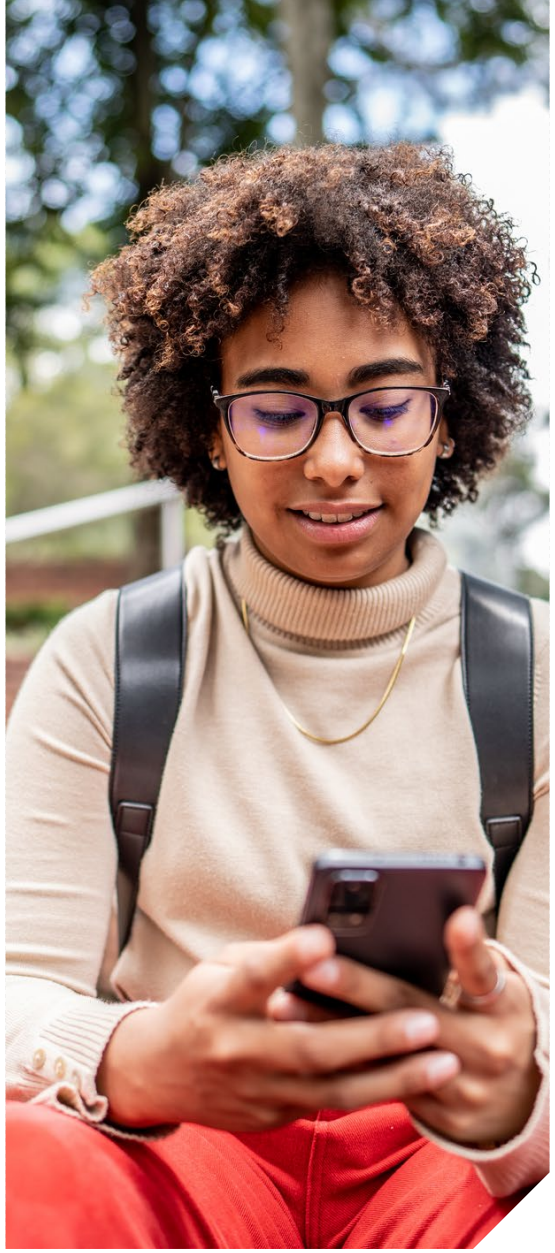
学校でのスマートフォンの使用禁止に対する支持が世代間で分かれており、ベビーブーマー世代とZ世代の間には30ポイントもの差があるのも当然かもしれません。3人に1人強（30カ国平均で36%）のZ世代が禁止を支持しているのに対し、ベビーブーマー世代では66%、次いでX世代(58%)、ミレニアル世代(53%)となっています。

ソーシャル メディアに関しては、年齢や段階を問わず、より多くのコンセンサスが得られています。

現在、ほとんどのソーシャルメディアプラットフォームでは、13歳以上のユーザーしか利用できないようになっています。しかし、子供の脳はソーシャルメディアの害に対して特に脆弱であるにもかかわらず、13歳未満の子供の多くは依然として自分のプロフィールを持っています。

これと連動して、Z世代（61%）、ミレニアル世代（68%）、X世代（66%）、ベビーブーマー世代（66%）の大多数は、14歳未満の子どもは学校内外でソーシャルメディアを使用することを禁止されるべきであることに同意しています。

デジタルリテラシーとオンラインでの安全性に関することを誰が教えるべきかについても世代間の合意が広がっていますが、デジタルネイティブ世代（ミレニアル世代58%、Z世代58%）よりも年配者（ベビーブーマー世代69%、X世代64%）の方が、教師や学校が主な責任を負うべきだと考える傾向がやや強いようです。



© イプソス教育モニター2024

AIを禁止すべきか、否か?

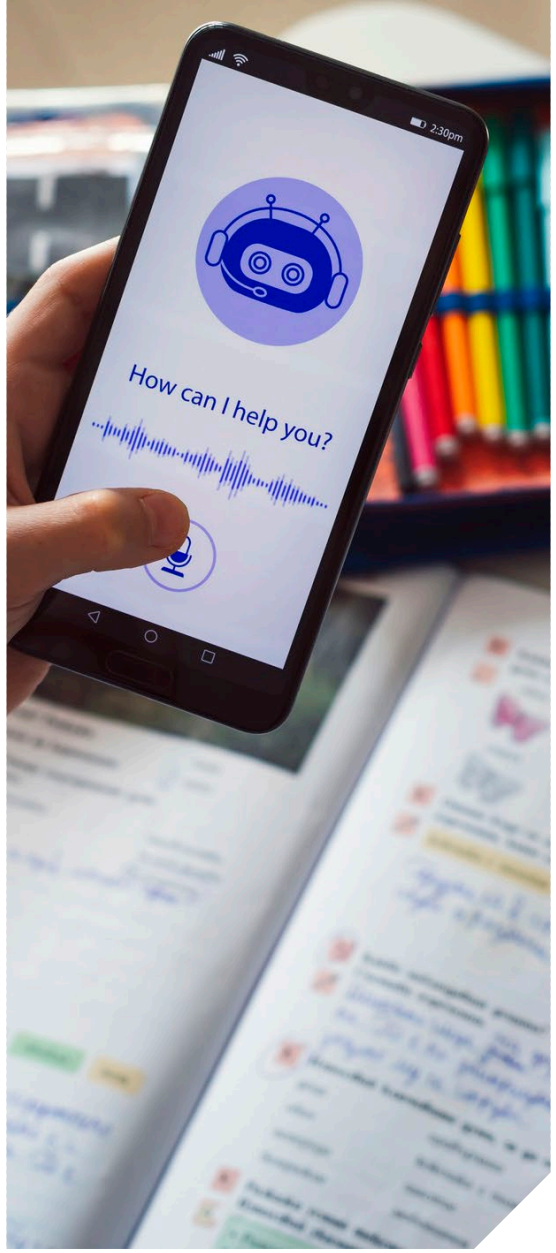
人工知能（AI）が主流になり始めたのは比較的最近のため、学生、保護者、教師は、この新しい技術をどのように使用するかについてまだ苦慮している。

ChatGPT が 2022 年後半にリリースされると、このツールを使用する生徒にリアルタイムで対応しなければならなかった世界中の教育者にとって、ほぼ即座に頭痛の種となりました。

ChatGPTの華々しい発売を受けて、30カ国平均で36%がAI（ChatGPTを含む）の使用を禁止すべきだとし、これは2023年の29%からわずかに増加しました。同時に、禁止すべきではないと考える人の割合は42%から37%に減少しています。また、現在4人に1人強（27%）が、学校でAIを禁止すべきかどうかわからないと回答しています。

AIを含むテクノロジーの進歩が教育の将来に与える影響についても、ますます複雑な感情が生まれており、現在27%がマイナスの影響よりもプラスの影響が大きいと回答し(前年比-8ポイント)、25%がマイナスの影響が大きいと回答しています(前年比+7ポイント)。一方、AIなどのテクノロジーが教育に与える影響は中立的であると回答した人は33%（前年比+3ポイント）でした。

教室でのAI禁止に対する支持は、英語圏とヨーロッパ諸国でより強くなっています。AIに対するこうした不信感は教育におけるAIの利用に限ったことではなく、英語圏やヨーロッパ諸国はAI製品全般の利用に対しても、最も不安を抱いています。



© イプソス教育モニター 2024

ベビーブーマー世代について

ベビーブーマー世代*は、最近の子供たちに、自分たちはどれだけ楽な暮らしをしているかを語ると言われている。

しかし、私たちの新しい世論調査によると、ベビーブーマー世代は、実は若者の方が大変だと考えている傾向が最も高い世代のようです。

ベビーブーマー世代の5人に3人強（30カ国平均で63%）は、あらゆる点を考慮に入れると、現在自国で育つのは自分たちが幼かった頃よりも大変になったと考えており、X世代も57%とそれほど差はありません。一方、若い世代の半数弱（ミレニアル世代の48%、Z世代の47%）は、自分たちより後輩のほうがより困難になっていると考えています。

ベビーブーマー世代に関する固定観念の一つは、ある程度真実であるように思われます。それは、「昔はもっとよかった」という考えです。

ベビーブーマー世代の半数強（世界平均では 57%）は、自国の教育システムの全体的な質が、自分たちが学生だった頃と比べて低下していると考えています。年齢が高いほど、教育制度が以前より悪くなっていると考える傾向が強く、Z世代では29%にとどまり、ミレニアル世代では39%、X世代では50%がそう考えています。

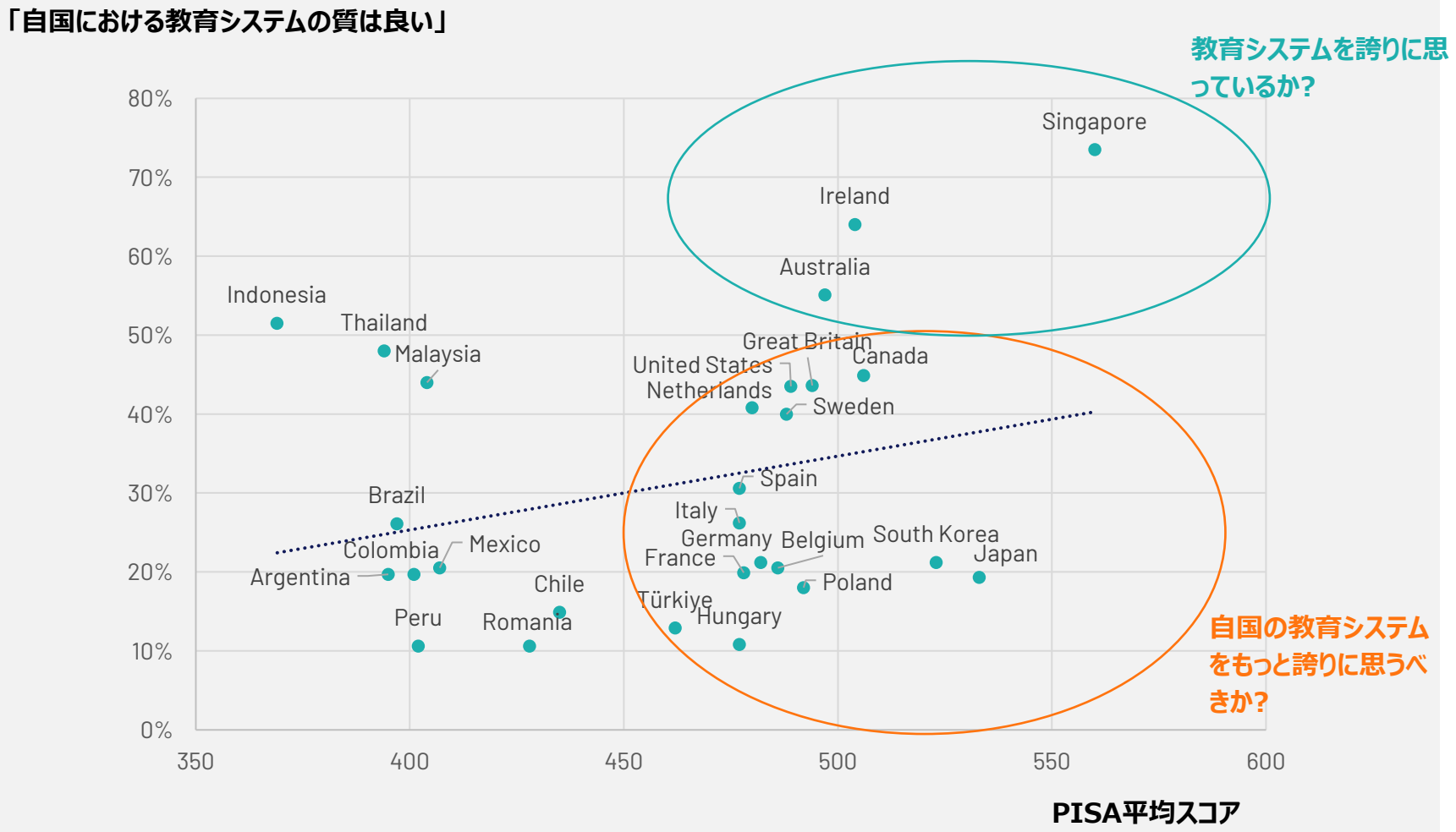
** Z世代(1996～2012年生まれ)、ミレニアル世代(1980～1995 年生まれ)、X世代(1966～1979 年生まれ)、ベビーブーマー世代(1945～1965 年生まれ)。*

© イプソス教育モニター 2024

認識の危険性

© Ipsos Education Monitor 2024

調査対象30カ国全体で、教育の質に関する認識は必ずしも現実と一致しているわけではありません。



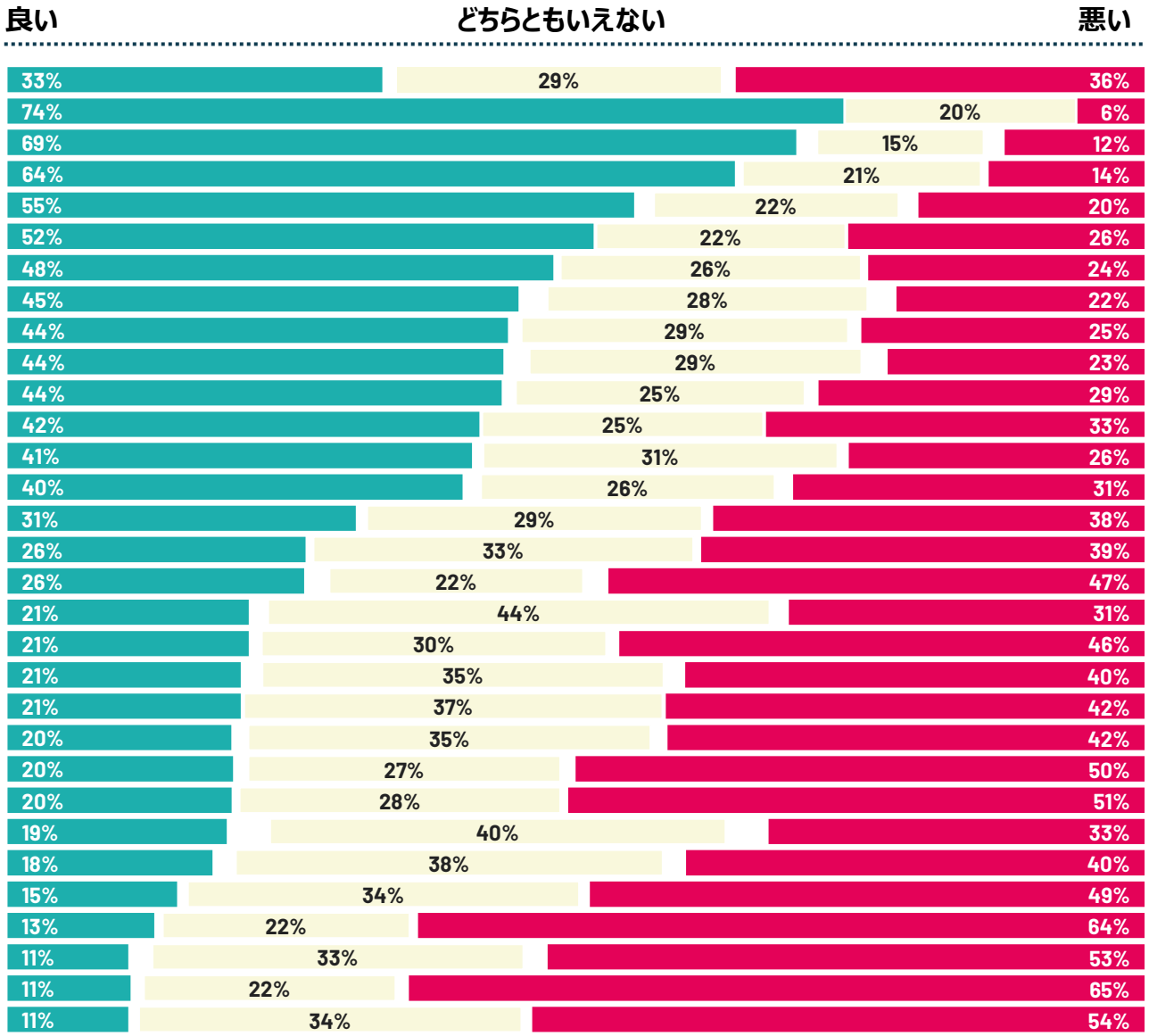
Q: あなたの国の教育システムの全体的な質をどのように評価しますか? 対 PISAスコア出典: https://www.oecd.org/en/about/programmes/pisa.html

© イプソス教育モニター 2024

教育システムに対する意識

© Ipsos Education Monitor 2024

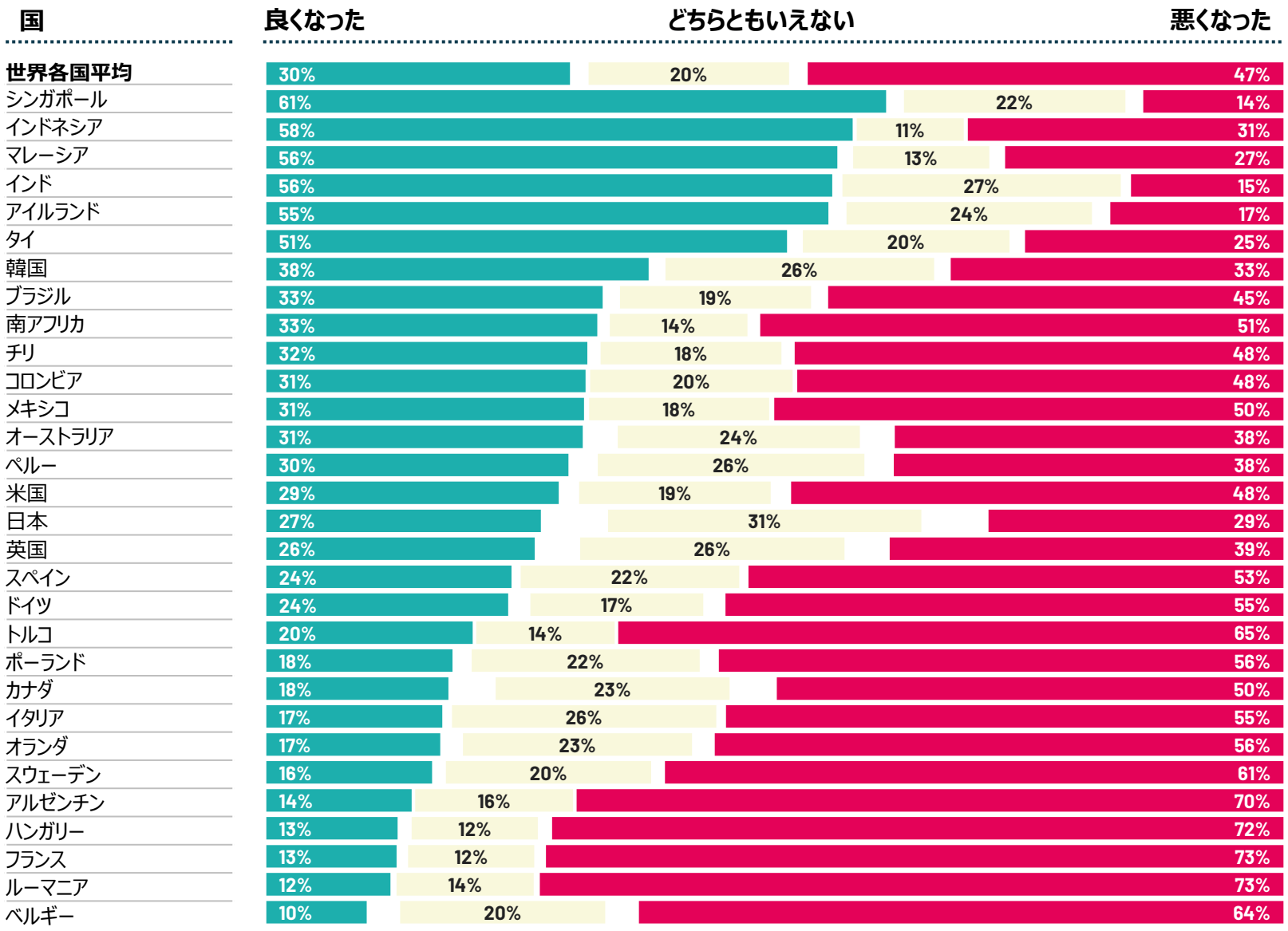
あなたの国における教育システムの全体的な質をどう評価しますか?



ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

© イプソス教育モニター 2024

あなたが学生だった頃と比較して、あなたの国における現在の教育システムの全体的な質をどう評価しますか？



ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

© イプソス教育モニター 2024

あなたが子どもの頃と比べて、現在のあなたの国で育つことについて、どう思いますか？あらゆる点を考慮に入れてお答えください。

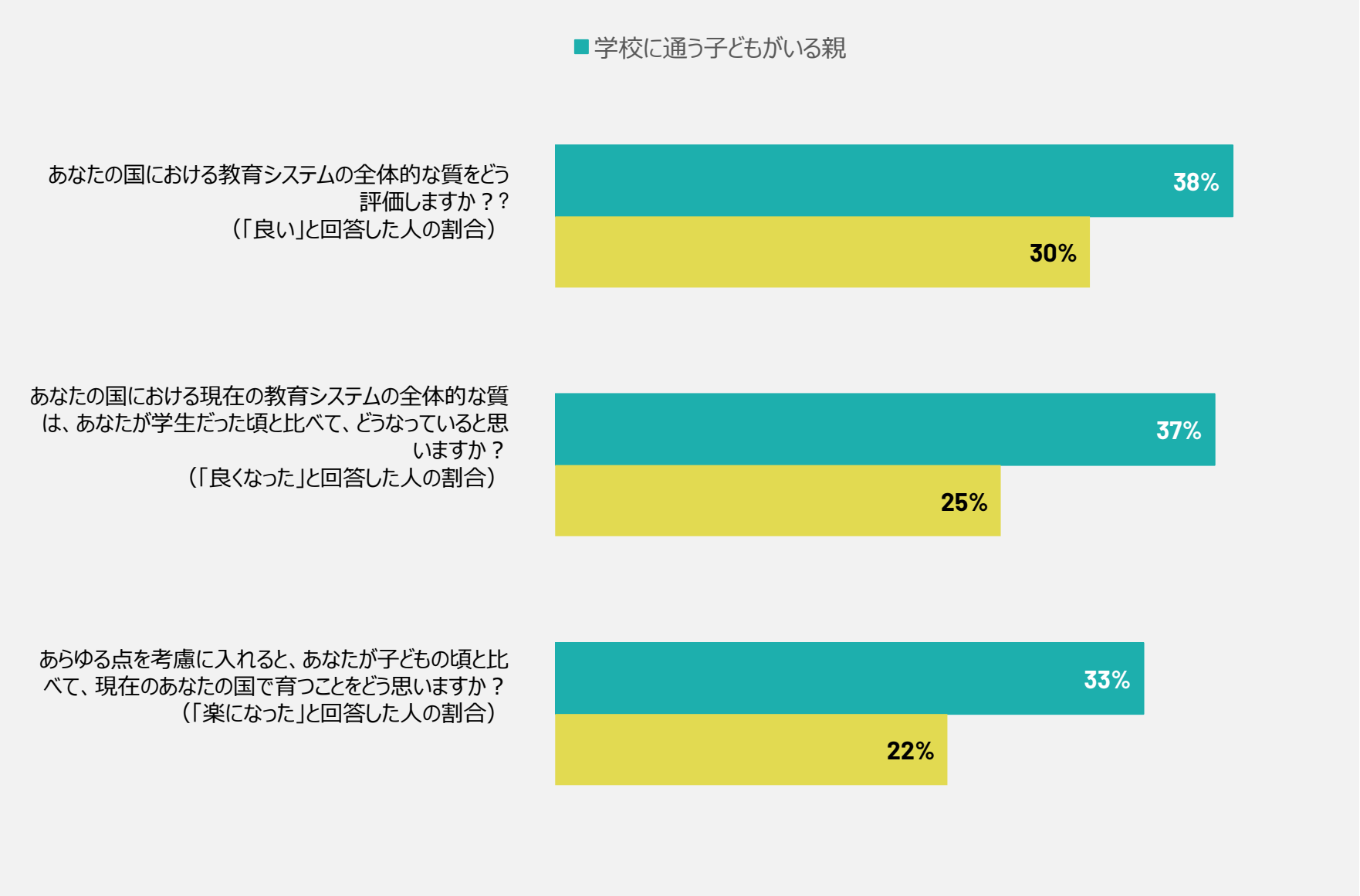
ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

	とても大変になった	少し大変になった	ほぼ同じ	少し楽になった	とても楽になった	大変になった	楽になった
世界各国平均	24%	29%	18%	18%	10%	53%	26%
ハンガリー	36%	35%	13%	10%	4%	71%	14%
トルコ	42%	28%	14%	10%	5%	70%	15%
アルゼンチン	37%	32%	13%	11%	5%	69%	16%
スウェーデン	30%	39%	13%	10%	4%	69%	14%
南アフリカ	35%	32%	7%	14%	11%	68%	25%
ベルギー	23%	42%	18%	11%	1%	65%	12%
フランス	26%	39%	17%	10%	5%	65%	14%
コロンビア	24%	39%	13%	13%	10%	63%	24%
オランダ	19%	42%	18%	12%	7%	61%	18%
カナダ	26%	32%	18%	14%	5%	58%	19%
イタリア	21%	37%	23%	13%	4%	57%	17%
アメリカ合衆国	30%	27%	16%	17%	9%	56%	26%
韓国	22%	33%	20%	16%	6%	55%	21%
英国	23%	31%	20%	12%	8%	55%	20%
ペルー	20%	33%	22%	16%	5%	54%	21%
ルーマニア	32%	22%	19%	18%	8%	54%	26%
ブラジル	27%	26%	16%	18%	11%	53%	28%
メキシコ	22%	30%	16%	19%	12%	52%	31%
オーストラリア	25%	27%	19%	16%	8%	52%	24%
チリ	25%	26%	13%	24%	9%	51%	33%
アイルランド	21%	25%	20%	21%	10%	46%	32%
日本	19%	27%	27%	15%	3%	46%	17%
シンガポール	20%	24%	18%	21%	14%	44%	36%
ポーランド	21%	22%	20%	20%	14%	43%	34%
スペイン	17%	25%	25%	19%	12%	42%	31%
インドネシア	16%	23%	14%	23%	24%	39%	47%
マレーシア	14%	24%	14%	25%	20%	38%	45%
ドイツ	12%	26%	20%	21%	15%	38%	36%
タイ	16%	18%	22%	22%	20%	34%	43%
インド	8%	18%	27%	28%	16%	26%	45%

© イプソス教育モニター 2024

30カ国平均では、学校に通う子供がいる親は、自国の教育に対してより肯定的な意見を持っています。

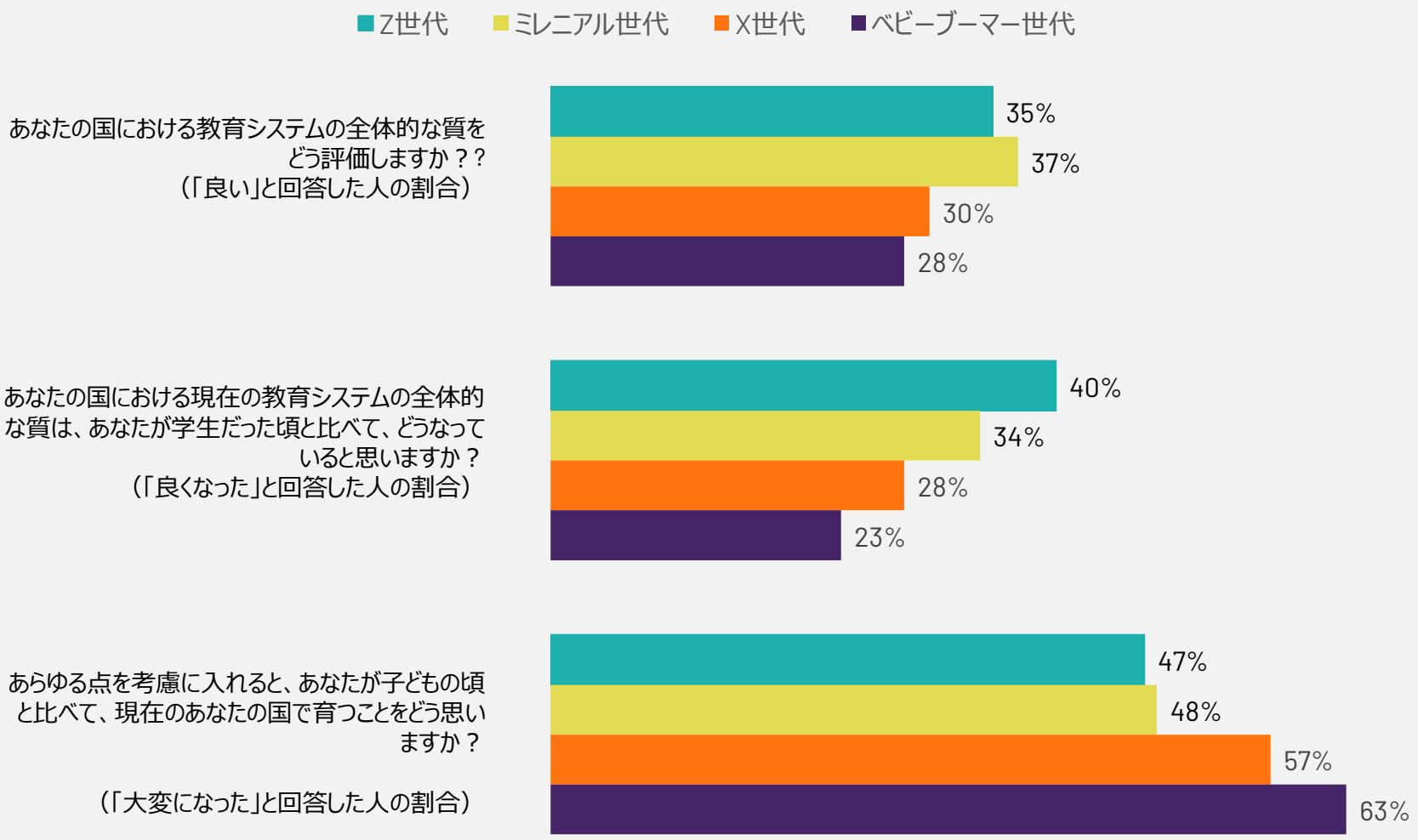
彼らはまた、一般の人々よりも、自分たちが子供のころと比べて、今の方が育つことが楽になったと考える傾向が高くなっています。



ベース：30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

© イプソス教育モニター 2024

若い世代は自国の教育制度に対して肯定的な見方をする傾向があり、現在自国で育つことは大変になったと考える傾向は低くなっています。

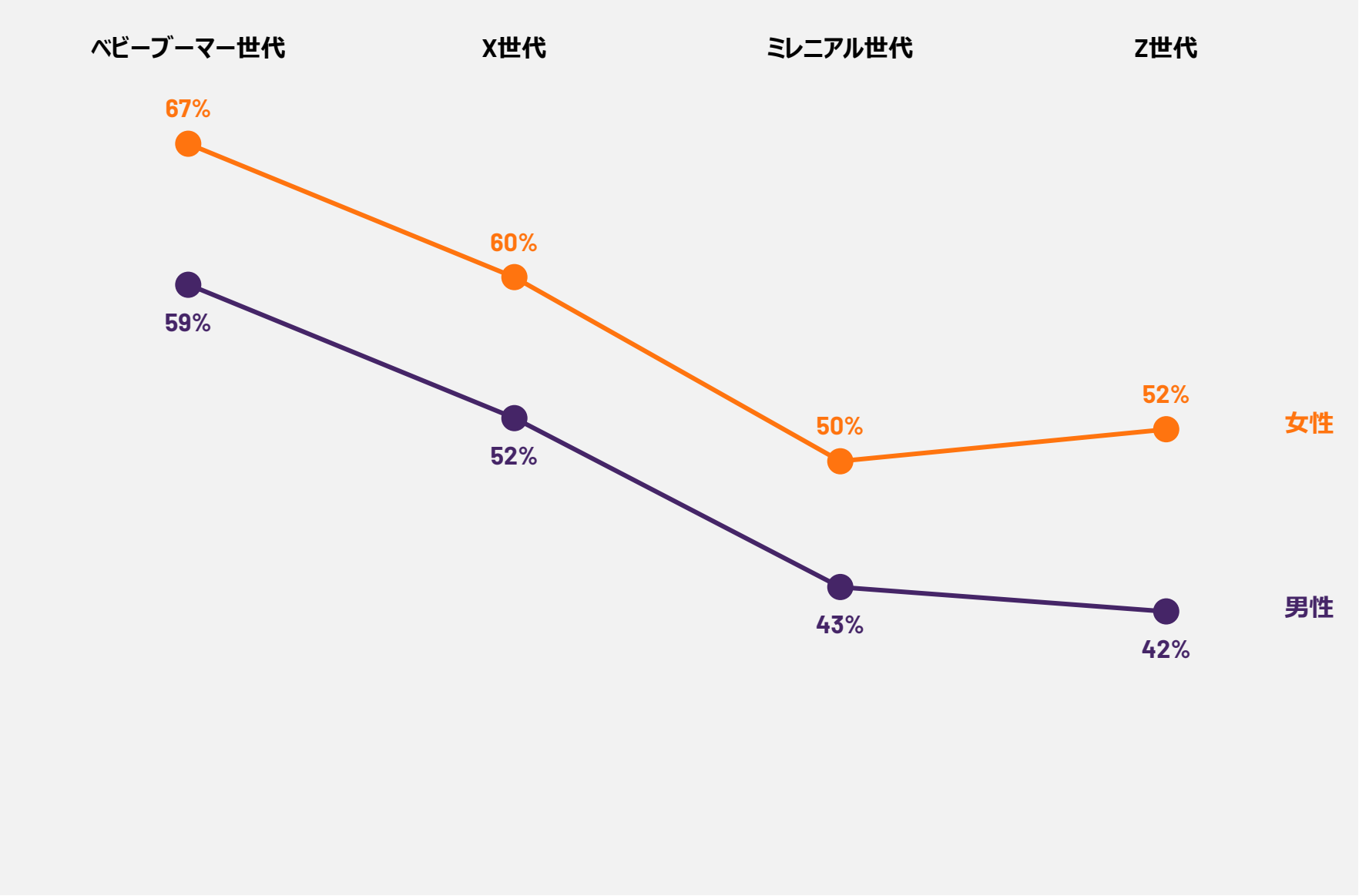


ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

© イプソス教育モニター 2024

どの世代でも、女性は、自分たちが子供の頃と比べて、現在のほうが育つことは大変になったと考える傾向があります。

大変になった（%）



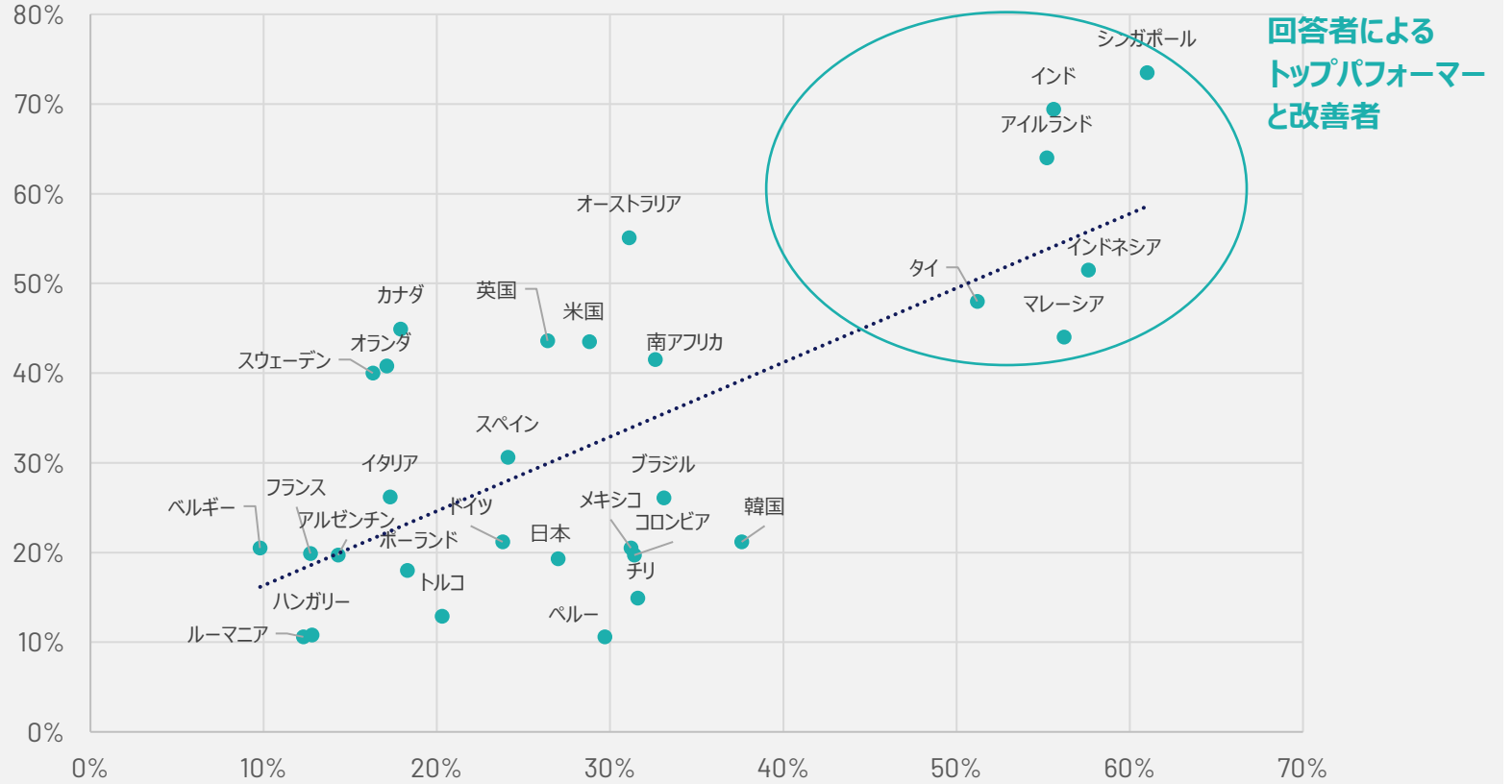
ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

© イプソス教育モニター 2024

人々の自国に対する認識によれば、最も優れた成果を上げ、改善している教育システムは主にアジアにあります。

ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

「教育システムの全体的な質は良い」



「教育システム全体の質は私が学生だった頃よりも良くなっています」

Q: あなたの国の教育システムの全体的な質をどのように評価しますか? Q: あなたが学生だった頃と比べて、あなたの国の教育システムの全体的な質は今どうなっていると思いますか?

© イプソス教育モニター 2024

教育システムへの課題

© Ipsos Education Monitor 2024

次の各記述にどの程度同意できますか?

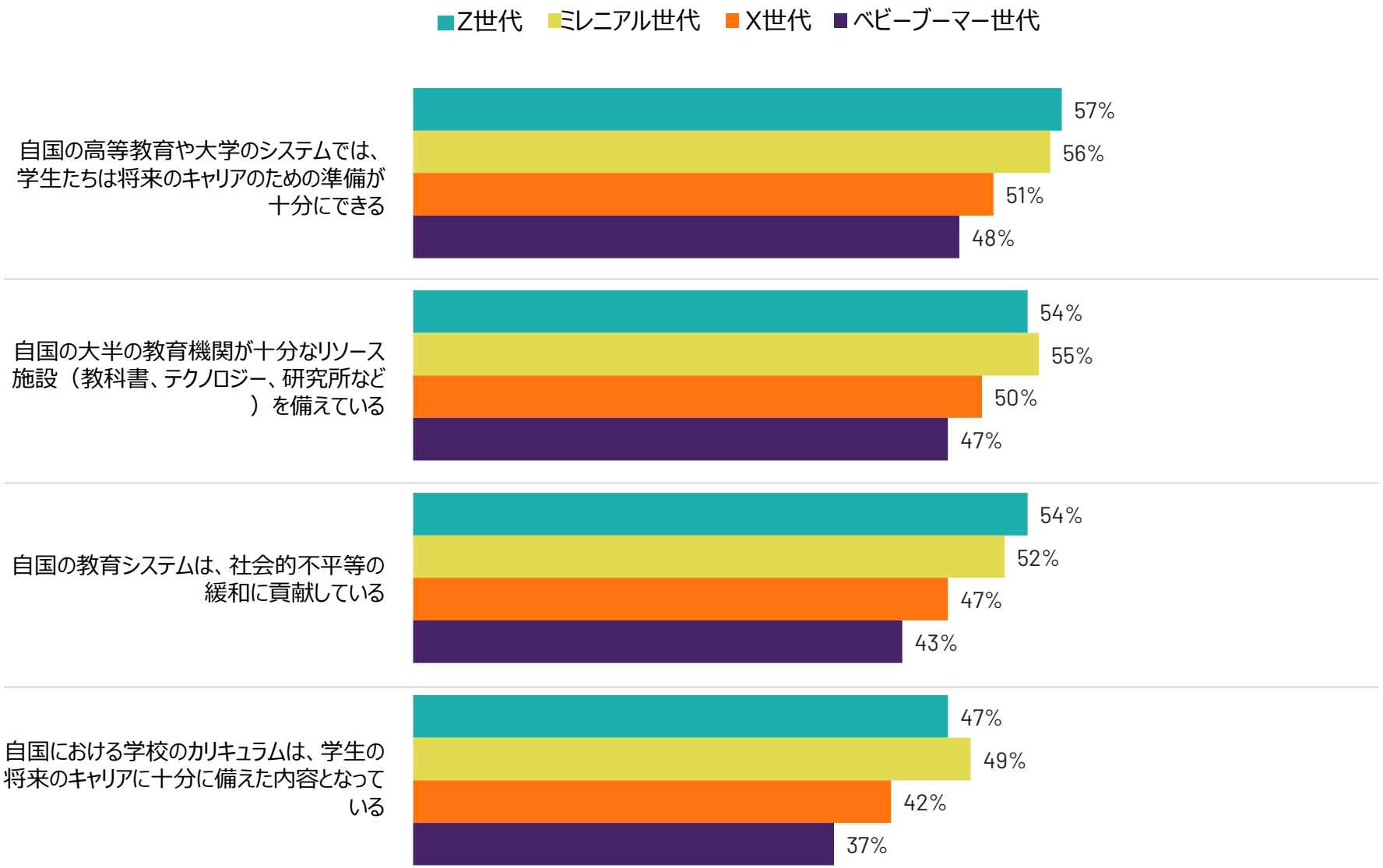
	そう思う	そう思わない	最高値と最低値
高等教育や大学のシステムでは、学生たちは将来のキャリアのための準備が十分にできる	53%	40%	インド（ 74%） ハンガリー（22%）
自国では、大半の教育機関が十分なリソースと施設（教科書、テクノロジー、研究所など）を備えている	52%	42%	シンガポール（86%） ハンガリー（32%）
自国における教育システムは、社会的不平等の緩和に貢献している	49%	42%	インド（72%） ハンガリー（30%）
自国における学校のカリキュラムは、学生の将来のキャリアに十分に備えた内容となっている	44%	50%	インド（74%） ハンガリー（22%）

ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

© イプソス教育モニター 2024

若い世代は自国の学校教育システムをより肯定的に評価している

（同意する%）

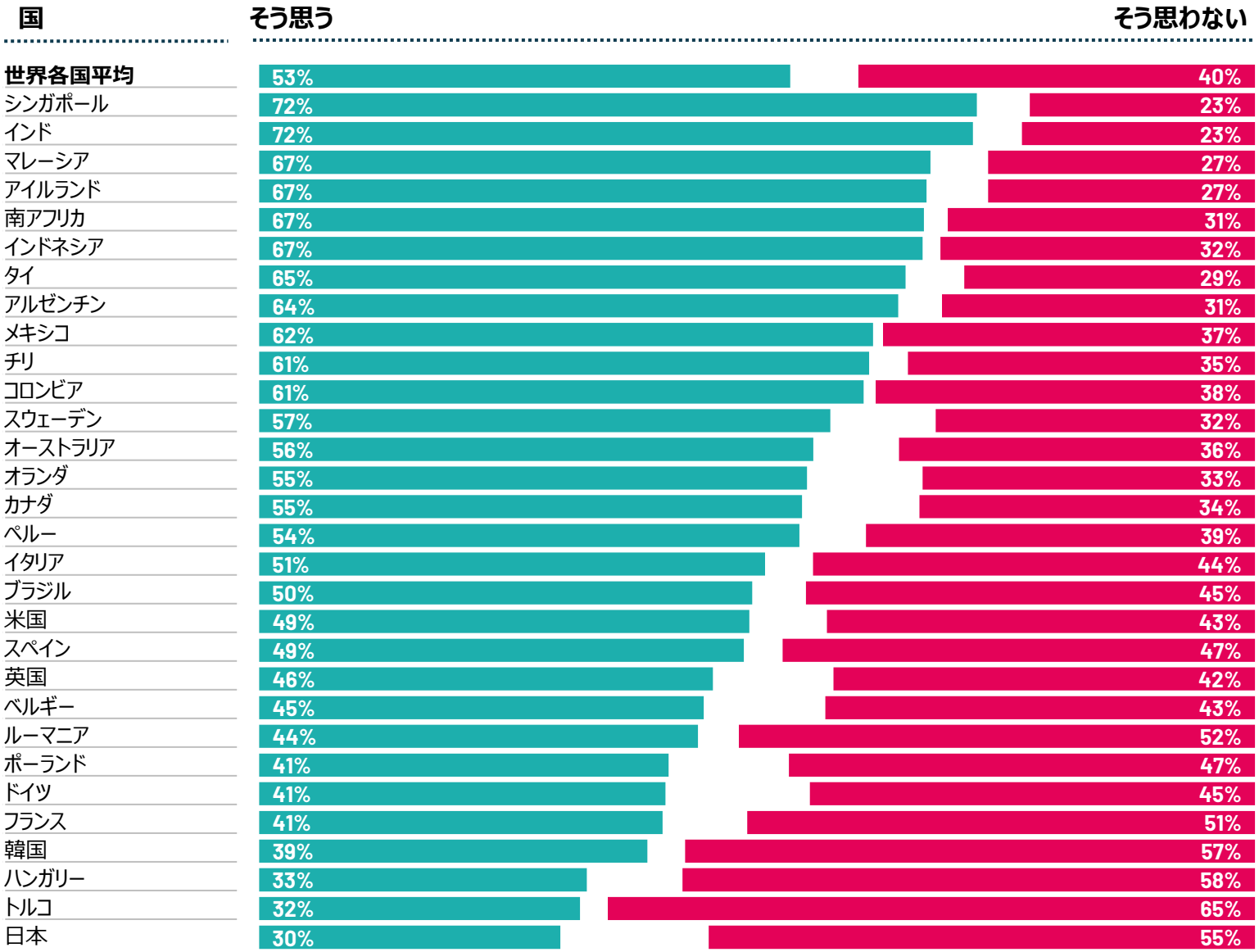


ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

© イプソス教育モニター 2024

次の各記述にどの程度同意できますか?

- 自国の高等教育や大学のシステムでは、学生たちは将来のキャリアのための準備が十分にできる

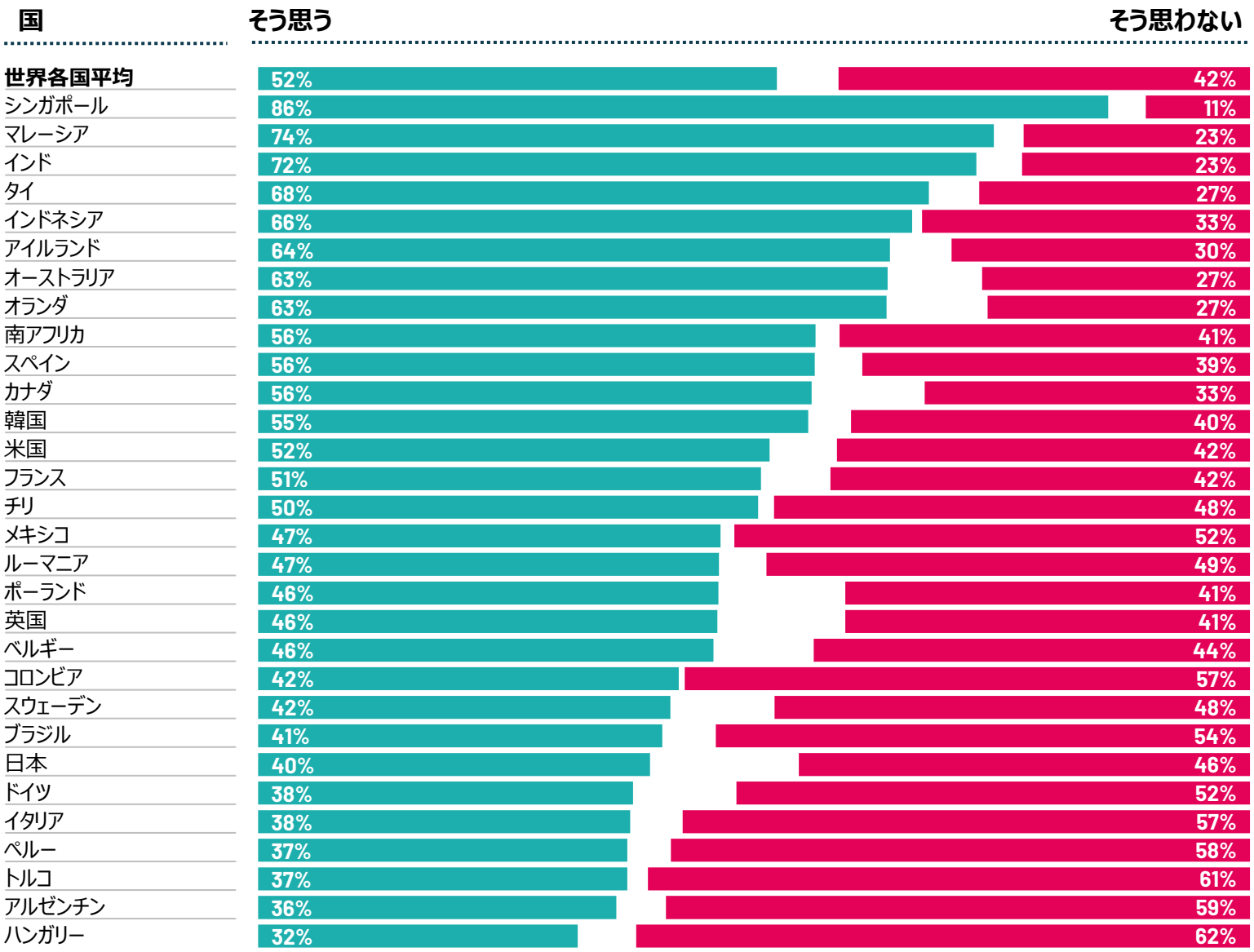


ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

© イプソス教育モニター 2024

次の各記述にどの程度同意できますか?

- 自国の大半の教育機関が十分なリソースと施設（教科書、テクノロジー、研究所など）を備えている

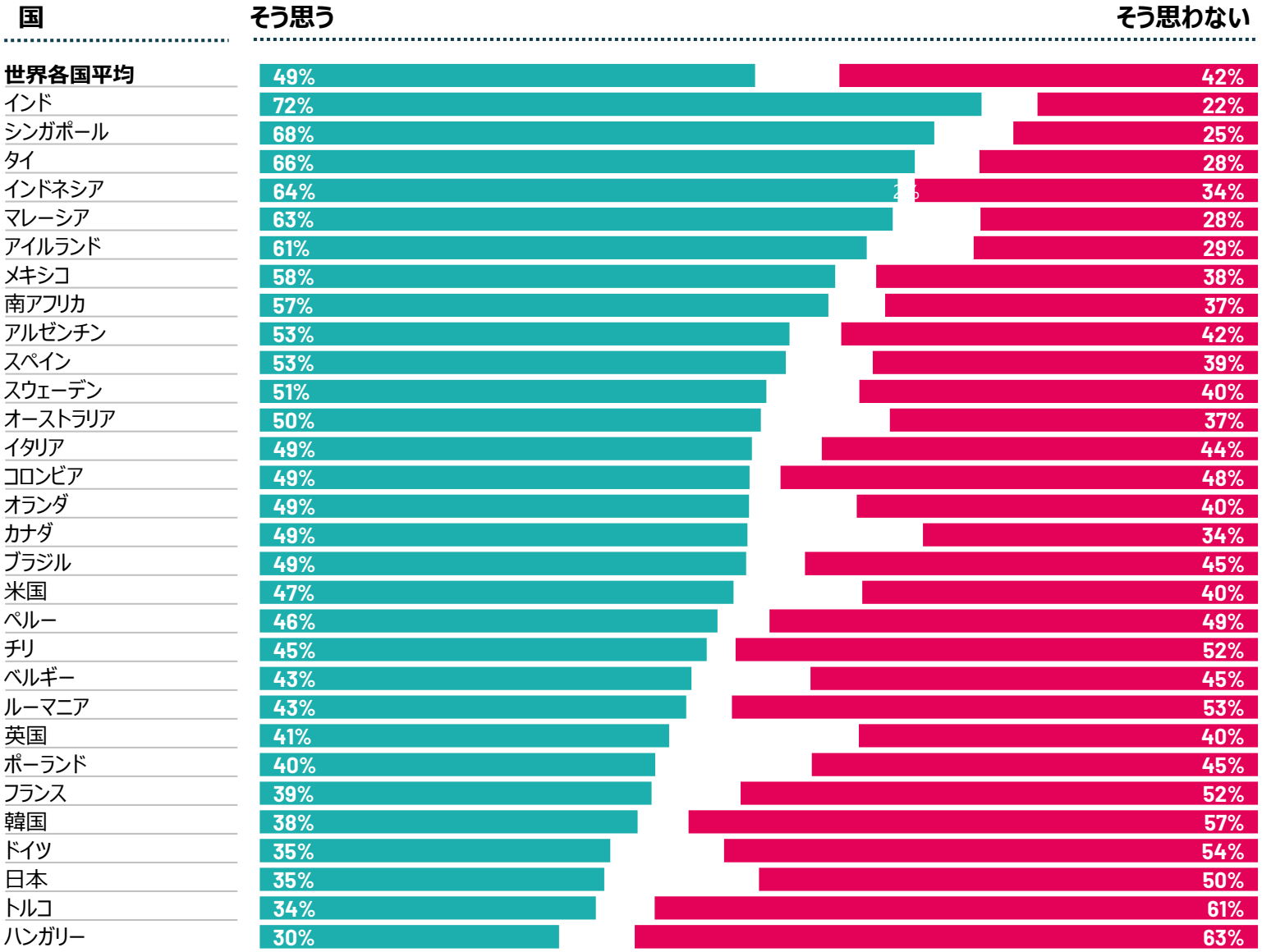


ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

© イプソス教育モニター 2024

次の各記述にどの程度同意できますか?

- 自国における教育システムは、社会的不平等の緩和に貢献している

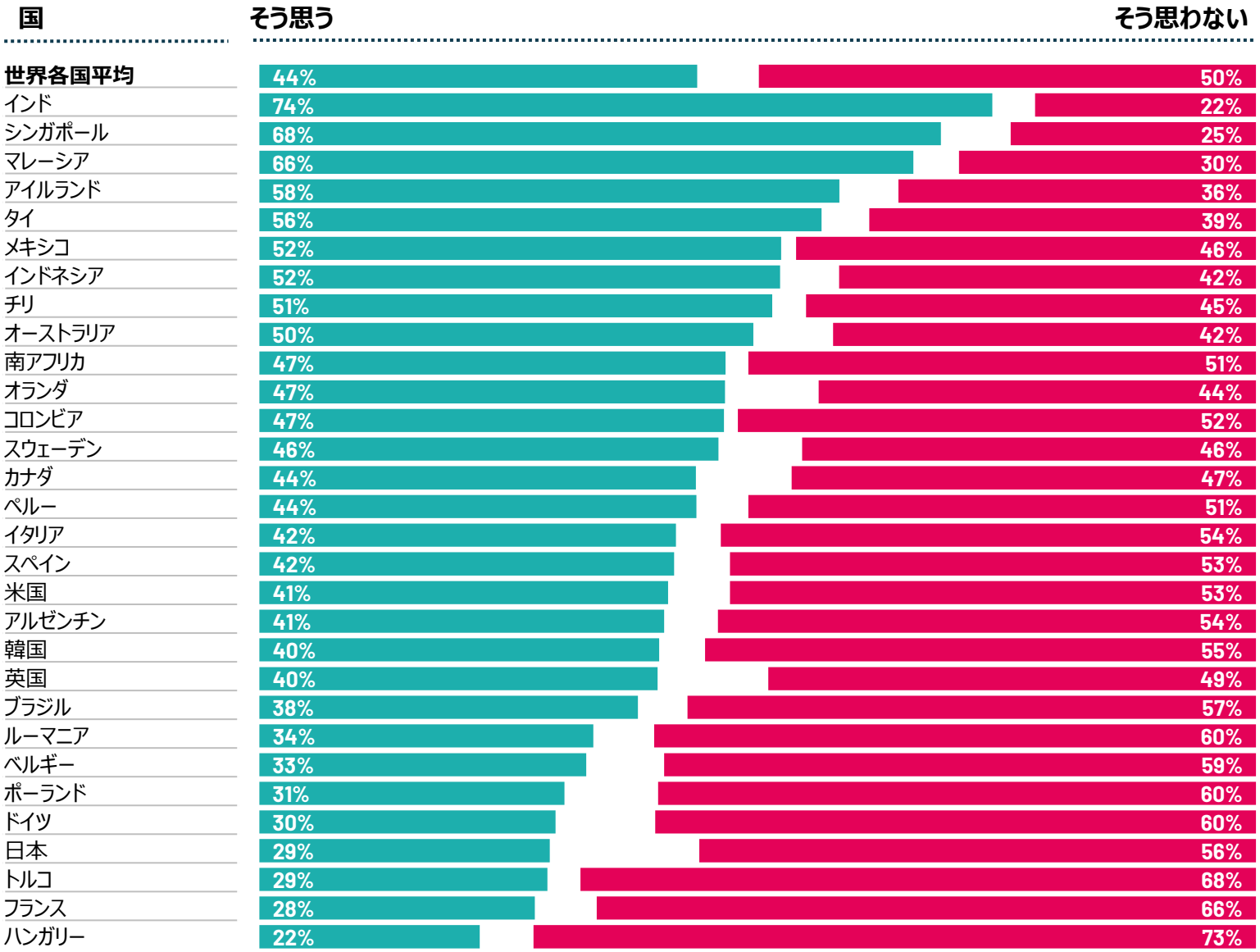


ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

© イプソス教育モニター 2024

次の各記述にどの程度同意できますか?

- 自国における学校のカリキュラムは、学生の将来のキャリアに十分に備えた内容となっている

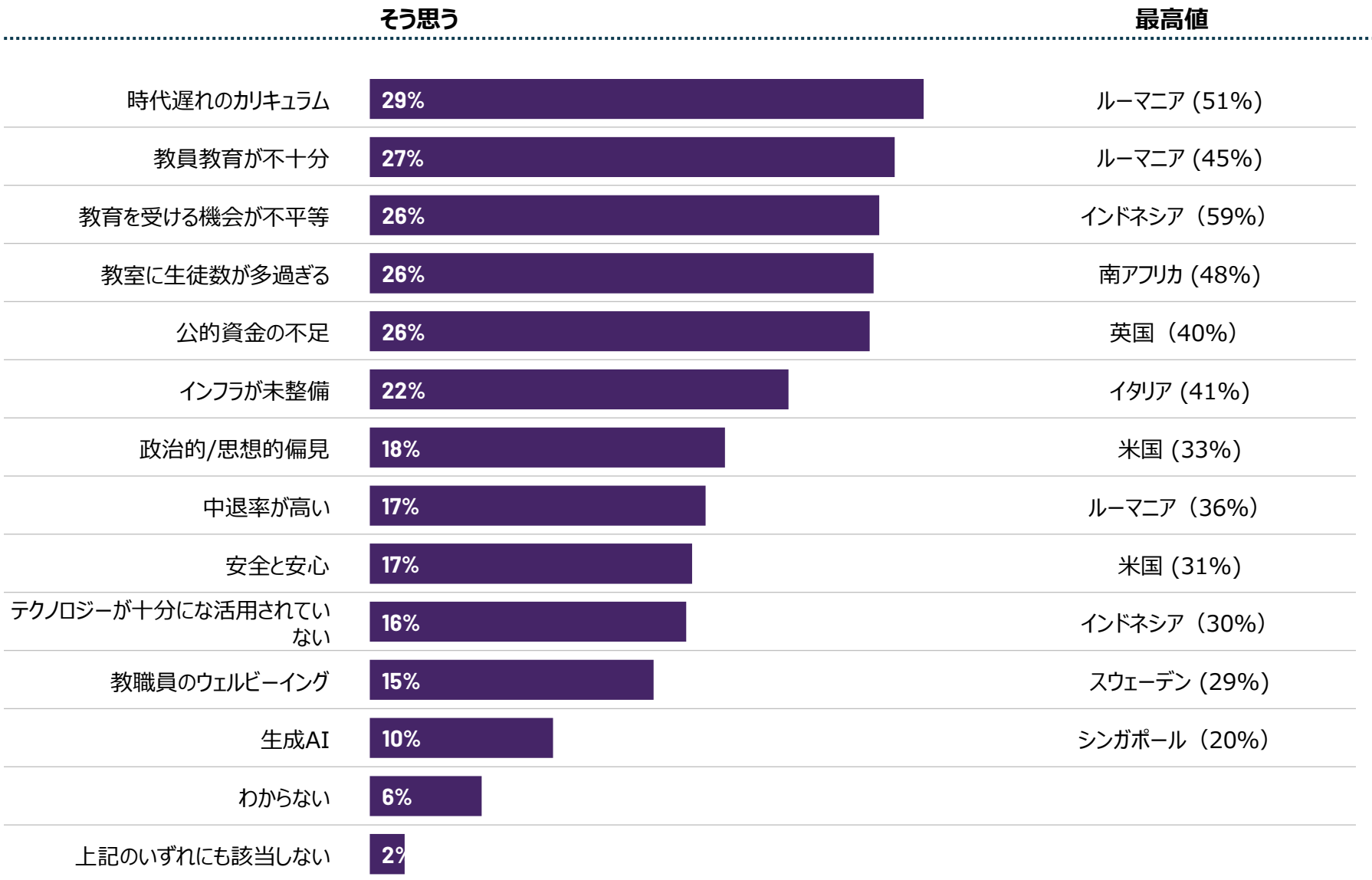


ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

© イプソス教育モニター 2024

あなたの国の教育システムが直面している最大の課題は何だと思いますか？

30カ国平均



ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

© イプソス教育モニター 2024

最大の教育課題

あなたの国の教育システムが直面している最大の課題は何だと思いますか？

	30カ国平均	アルゼンチン	オーストラリア	ベルギー	ブラジル	カナダ	チリ	コロンビア	フランス	ドイツ	英国	ハンガリー	インド	インドネシア	アイルランド	イタリア	日本	マレーシア	メキシコ	オランダ	ペルー	ポーランド	ルーマニア	シンガポール	南アフリカ	韓国	スペイン	スウェーデン	タイ	トルコ	米国
時代遅れのカリキュラム	**29%**	41%	23%	24%	13%	25%	25%	30%	27%	37%	26%	40%	20%	20%	27%	32%	31%	26%	34%	21%	33%	45%	51%	18%	17%	35%	33%	18%	40%	32%	19%
教員教育が不十分	**27%**	32%	28%	22%	21%	19%	22%	29%	27%	28%	16%	34%	29%	25%	15%	32%	36%	24%	36%	30%	36%	32%	45%	22%	25%	29%	20%	29%	25%	32%	20%
教育を受ける機会が不平等	**26%**	24%	19%	19%	38%	13%	44%	35%	19%	28%	17%	29%	25%	59%	17%	17%	19%	33%	28%	18%	30%	19%	18%	15%	33%	45%	18%	26%	38%	30%	21%
教室に生徒数が多すぎる	**26%**	15%	25%	41%	20%	39%	41%	27%	45%	35%	33%	12%	23%	13%	34%	17%	7%	21%	22%	45%	22%	19%	12%	18%	48%	7%	28%	46%	8%	37%	24%
公的資金の不足	**26%**	33%	29%	26%	35%	28%	36%	37%	31%	17%	40%	35%	17%	25%	33%	30%	22%	19%	28%	20%	32%	16%	24%	14%	26%	13%	28%	24%	22%	12%	27%
インフラが未整備	**22%**	34%	11%	17%	33%	17%	31%	40%	13%	15%	20%	18%	21%	36%	16%	41%	8%	23%	30%	4%	37%	12%	20%	8%	28%	21%	19%	6%	29%	33%	14%
政治的/思想的偏見	**18%**	17%	18%	11%	17%	20%	15%	11%	17%	19%	19%	30%	22%	16%	14%	14%	9%	26%	12%	13%	9%	30%	14%	15%	14%	28%	26%	17%	20%	26%	33%
中退率が高い	**17%**	26%	13%	23%	18%	17%	14%	18%	15%	11%	9%	16%	21%	22%	15%	17%	5%	18%	20%	31%	13%	13%	36%	9%	31%	10%	25%	25%	9%	10%	16%
安全と安心	**17%**	16%	19%	12%	24%	16%	21%	17%	30%	12%	12%	10%	24%	9%	15%	14%	12%	12%	24%	14%	19%	12%	21%	13%	20%	18%	13%	14%	14%	15%	31%
テクノロジーが十分に活用されていない	**16%**	15%	10%	9%	13%	9%	13%	21%	6%	17%	9%	14%	24%	30%	15%	19%	18%	29%	23%	7%	25%	22%	19%	15%	25%	10%	9%	6%	25%	25%	11%
教職員のウェルビーイング	**15%**	9%	25%	23%	9%	17%	9%	10%	19%	12%	22%	15%	21%	11%	18%	12%	15%	10%	13%	25%	6%	13%	9%	26%	7%	12%	11%	29%	7%	8%	18%
生成AI	**10%**	4%	17%	10%	6%	13%	3%	6%	7%	8%	9%	4%	14%	11%	17%	7%	6%	16%	6%	13%	2%	16%	6%	20%	5%	9%	13%	9%	7%	10%	12%

ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

© イプソス教育モニター 2024

あなたの国の教育システムが直面している最大の課題は何だと思いますか？

世代別の課題トップ3

Z世代

- 30% 時代遅れのカリキュラム
- 27% 教育を受ける機会が不平等
- 26% 公的資金の不足

ミレニアル世代

- 27% 時代遅れのカリキュラム
- 26% 教育を受ける機会が不平等
- 26% 公的資金の不足

X世代

- 30% 教員教育が不十分
- 30% 時代遅れのカリキュラム
- 28% 教室に生徒が多過ぎる

ベビーブーマー世代

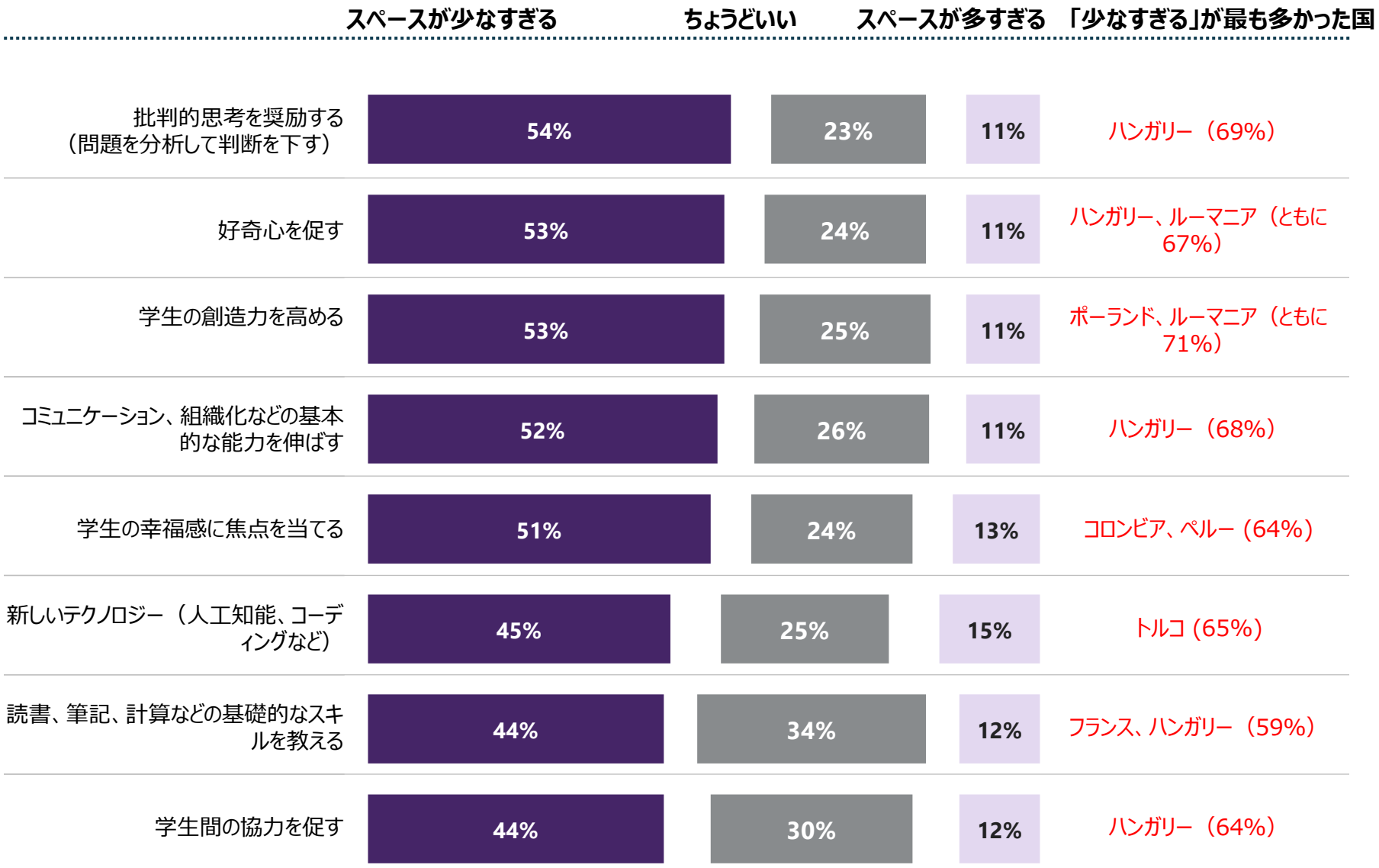
- 31% 教室に生徒が多過ぎる
- 31% 教員教育が不十分
- 29% 時代遅れのカリキュラム

ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

© イプソス教育モニター 2024

自国における学校のカリキュラムが、次の各要素のために用意しているスペースは、多すぎる、少なすぎる、ちょうどいい、のいずれに該当すると思いますか？

30カ国平均



ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

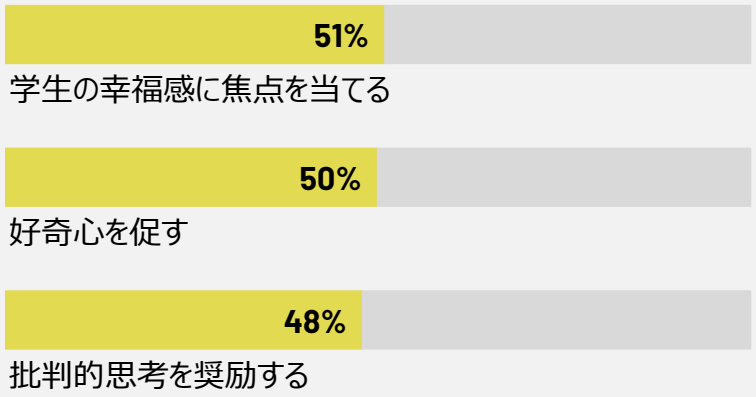
© イプソス教育モニター 2024

自国における学校のカリキュラムが、次の各要素のために用意しているスペースは、多すぎる、少なすぎる、ちょうどいい、のいずれに該当すると思いますか？

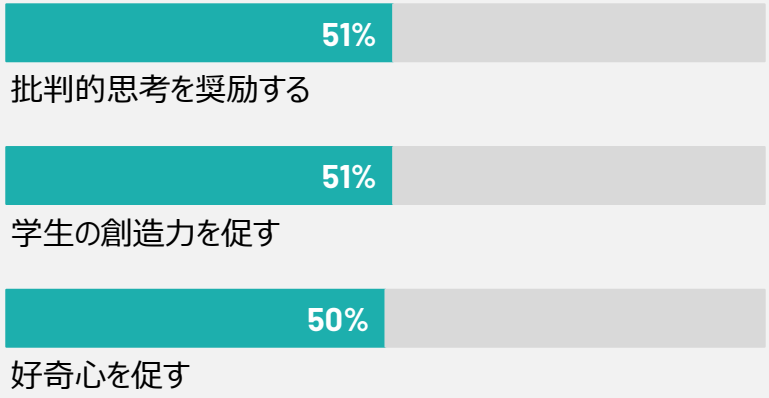
世代別の「スペースが少なすぎる」トップ3

ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

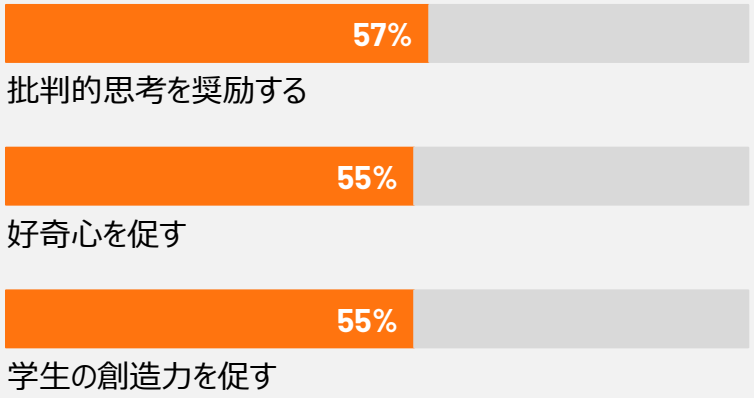
Z世代



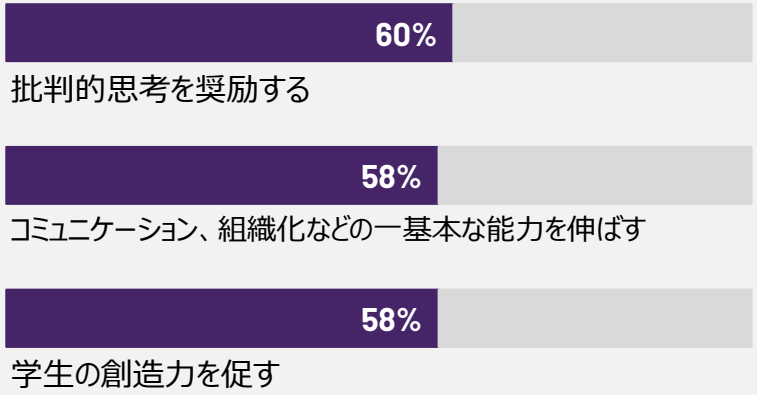
ミレニアル世代



X世代



ベビーブーマー世代



© イプソス教育モニター 2024

教育とテクノロジー

© Ipsos Education Monitor 2024

テクノロジー（人工知能を含む）の進歩は、将来の教育にどのような影響を与えると思いますか？

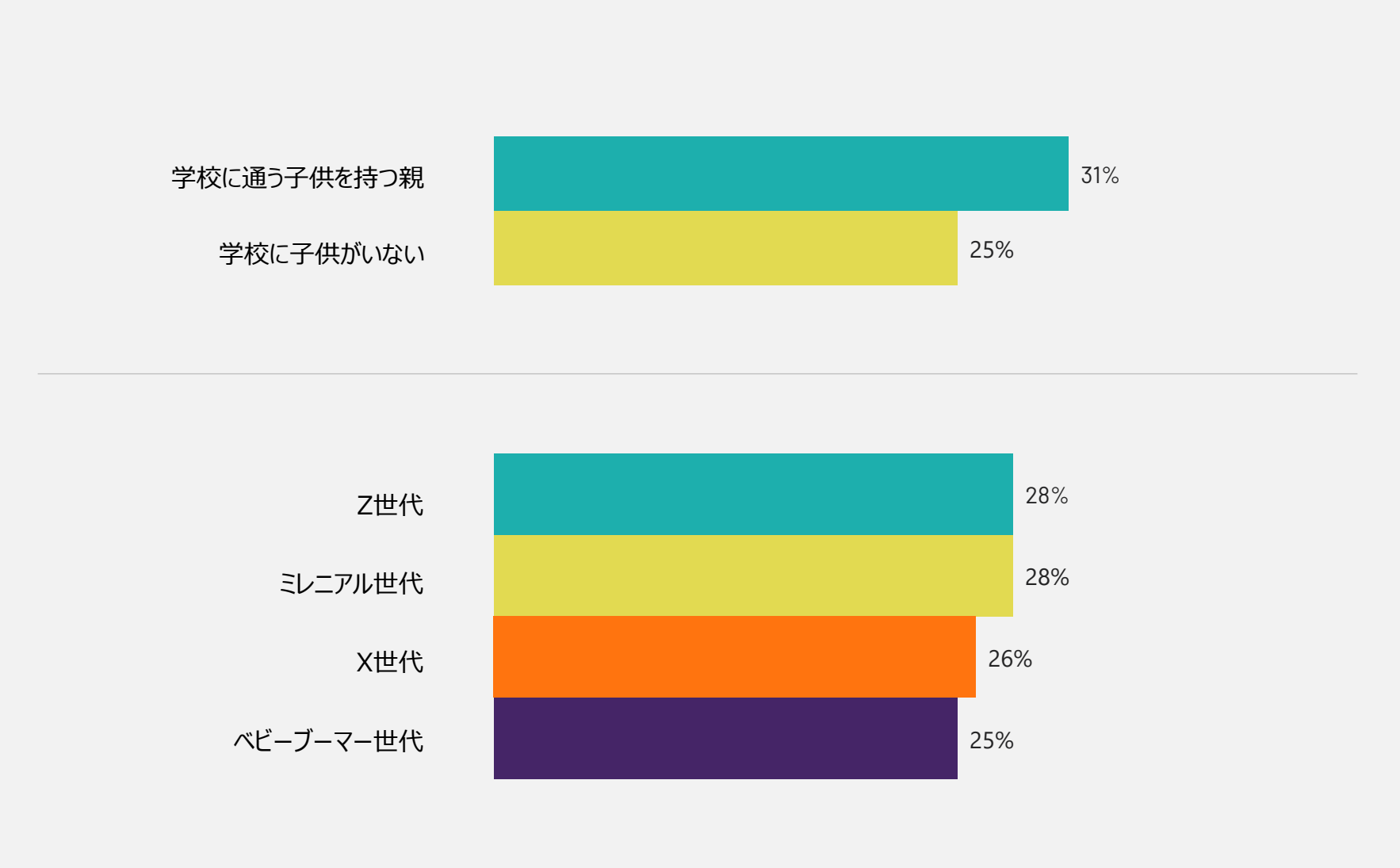
国	ネガティブな影響よりもポジティブな影響が大きい	ポジティブな影響とネガティブな影響が半々/中立	影響はない	ポジティブな影響よりもネガティブな影響が大きい	2023年よりポジティブ	2023年よりネガティブ
世界各国平均	27%	33%	4%	25%	35%	18%
インドネシア	48%	32%	1%	13%	54%	12%
南アフリカ	41%	36%	2%	16%	44%	15%
メキシコ	40%	30%	3%	22%	42%	17%
チリ	38%	28%	3%	26%	48%	23%
アルゼンチン	37%	26%	3%	22%	53%	15%
タイ	36%	43%	3%	12%	43%	10%
ペルー	34%	26%	3%	26%	49%	15%
トルコ	33%	34%	7%	16%	42%	12%
コロンビア	32%	28%	3%	34%	43%	25%
マレーシア	32%	41%	2%	16%	38%	13%
ブラジル	30%	27%	3%	28%	37%	20%
ルーマニア	28%	29%	4%	30%	該当なし	該当なし
スペイン	28%	28%	3%	31%	43%	20%
シンガポール	27%	49%	2%	13%	37%	11%
韓国	25%	44%	4%	15%	30%	7%
イタリア	25%	33%	5%	27%	38%	17%
アイルランド	25%	31%	3%	29%	34%	19%
米国	24%	30%	3%	31%	22%	25%
ハンガリー	23%	32%	4%	29%	34%	15%
インド	23%	32%	14%	15%	27%	19%
スウェーデン	22%	29%	3%	31%	27%	25%
ドイツ	22%	34%	3%	29%	31%	19%
英国	20%	31%	4%	26%	26%	21%
オランダ	18%	37%	3%	28%	30%	20%
オーストラリア	18%	33%	3%	33%	26%	25%
カナダ	18%	29%	3%	35%	24%	25%
日本	17%	37%	7%	12%	18%	7%
ポーランド	16%	38%	3%	28%	27%	12%
ベルギー	15%	33%	5%	32%	31%	17%
フランス	14%	29%	4%	37%	22%	29%

ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

© イプソス教育モニター 2024

テクノロジー（人工知能を含む）の進歩は、将来の教育にどのような影響を与えると思いますか？

（ネガティブな影響よりもポジティブな影響が大きいと回答した人の割合）

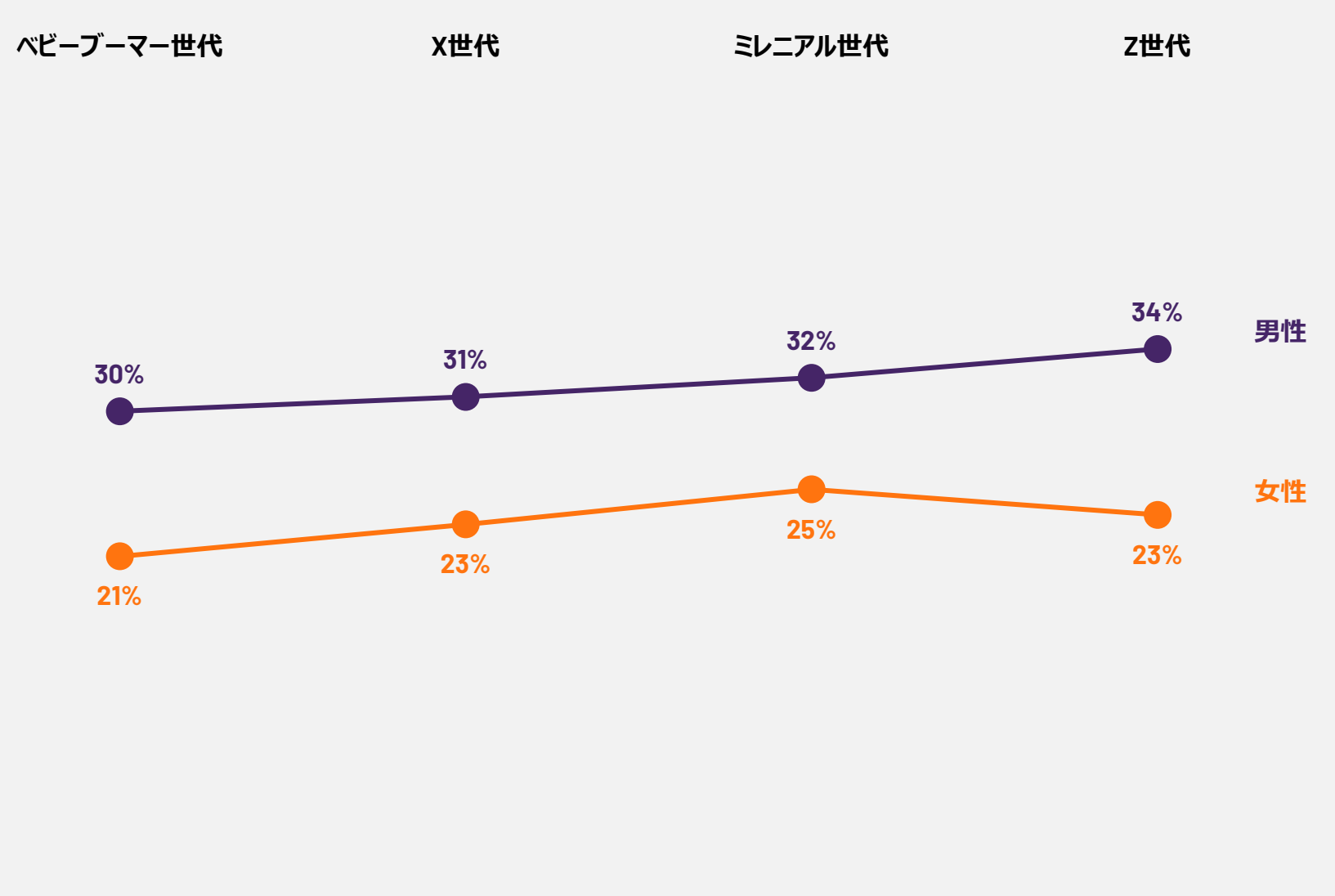


ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

© イプソス教育モニター 2024

世代を超えて、男性はテクノロジーの進歩が将来の教育に良い影響を与えると考える傾向が強いようです。

(ネガティブな影響よりもポジティブな影響が大きい割合)

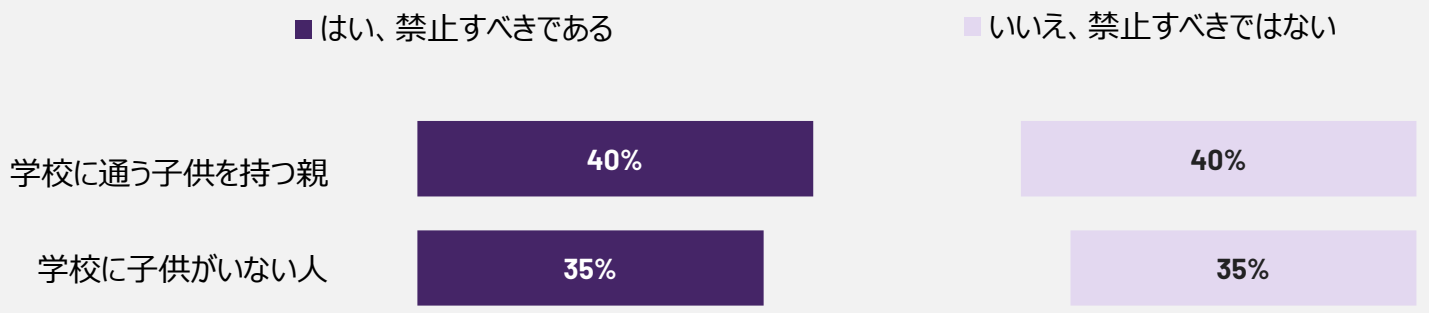


ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

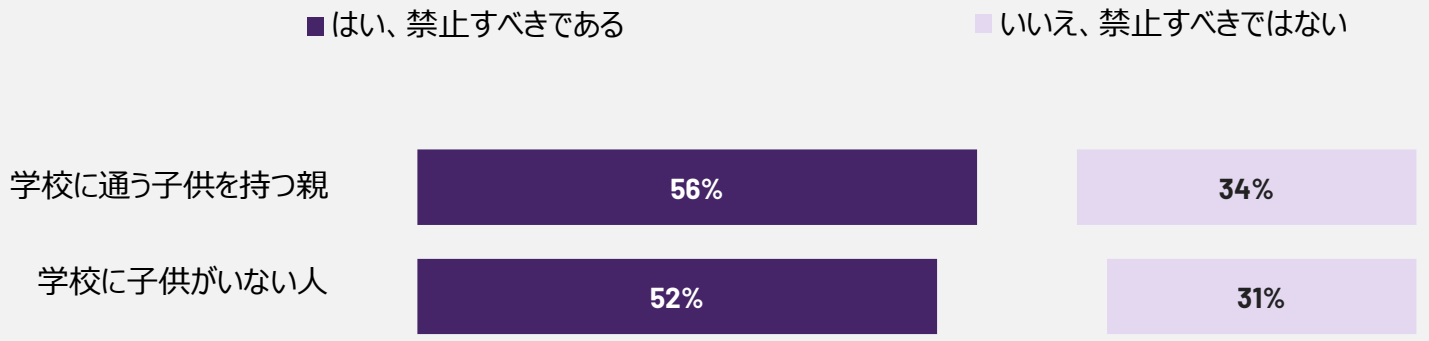
© イプソス教育モニター 2024

学校でのAIの使用禁止は、親とそうでない人々の間で意見が分かれていますが、スマートフォンの使用禁止についてはより一致した意見があります。

学校でAI（ChatGPTを含む）の使用を禁止すべきだと思いますか？



スマートフォンの学校での使用は禁止されるべきだと思いますか？



ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

© イプソス教育モニター 2024

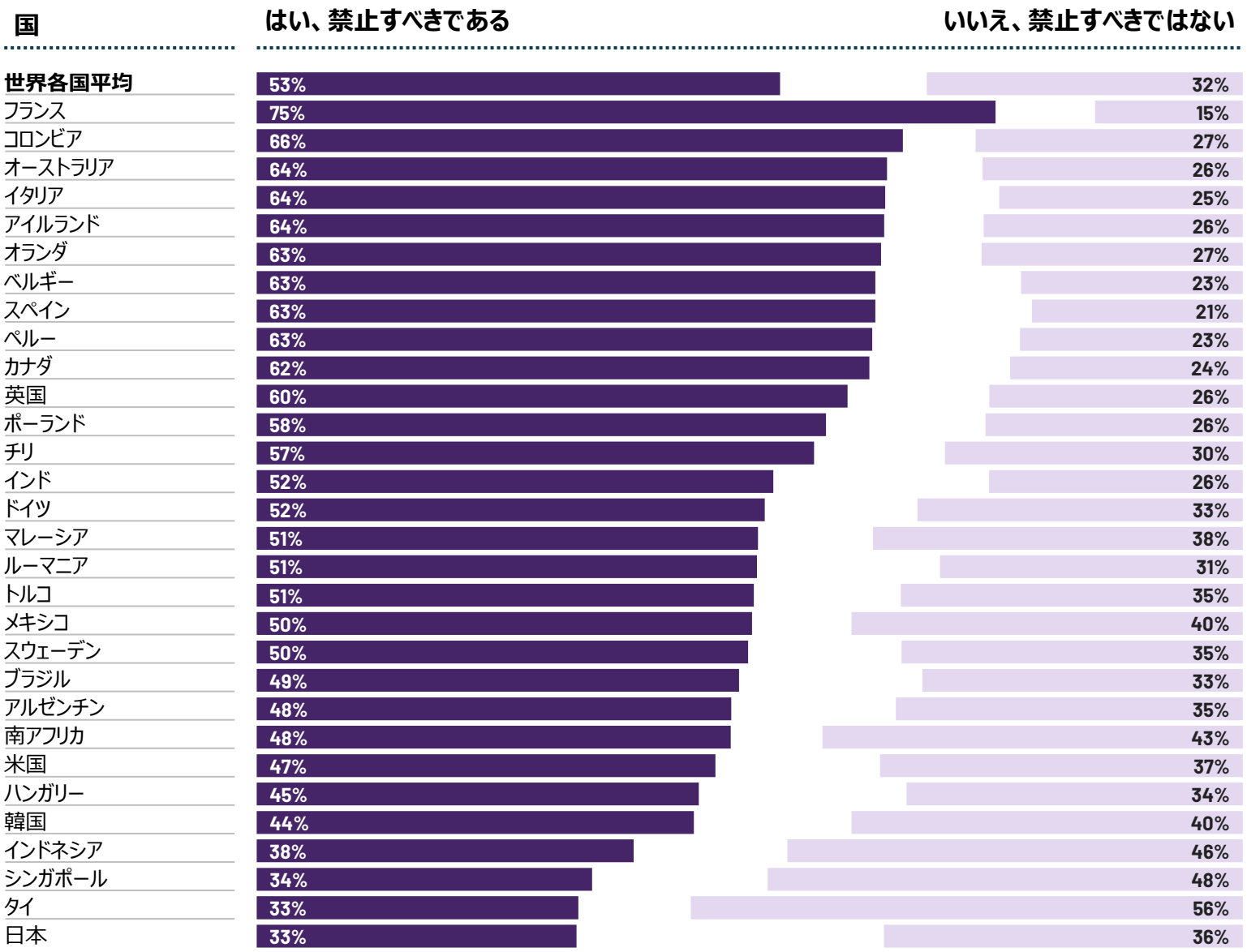
学校でChatGPT の使用を禁止すべきだと思いますか?

国	はい、禁止すべきである	いいえ、禁止すべきではない	2023年にはい、の回答	2023年にいいえ、の回答
世界各国平均	36%	37%	29%	42%
カナダ	52%	21%	41%	28%
フランス	51%	25%	48%	28%
オーストラリア	49%	29%	44%	30%
アイルランド	48%	30%	41%	32%
コロンビア	47%	32%	33%	46%
イタリア	42%	35%	31%	43%
英国	42%	29%	40%	26%
ポーランド	42%	28%	24%	40%
チリ	41%	36%	30%	47%
米国	41%	31%	38%	26%
ベルギー	40%	33%	36%	36%
スペイン	39%	31%	29%	40%
ルーマニア	39%	31%	該当なし	該当なし
インド	39%	34%	16%	40%
ドイツ	38%	35%	32%	38%
ペルー	38%	35%	21%	54%
南アフリカ	36%	46%	26%	53%
スウェーデン	35%	37%	32%	38%
メキシコ	35%	45%	27%	46%
アルゼンチン	34%	37%	22%	54%
ハンガリー	32%	32%	20%	41%
オランダ	31%	40%	33%	37%
ブラジル	30%	34%	21%	46%
マレーシア	29%	47%	23%	54%
シンガポール	27%	48%	29%	46%
韓国	25%	49%	21%	52%
インドネシア	25%	52%	21%	50%
トルコ	24%	50%	15%	59%
タイ	22%	52%	20%	53%
日本	20%	34%	18%	35%

ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

© イプソス教育モニター 2024

学校でのスマートフォンの使用を禁止すべきだと思いますか?

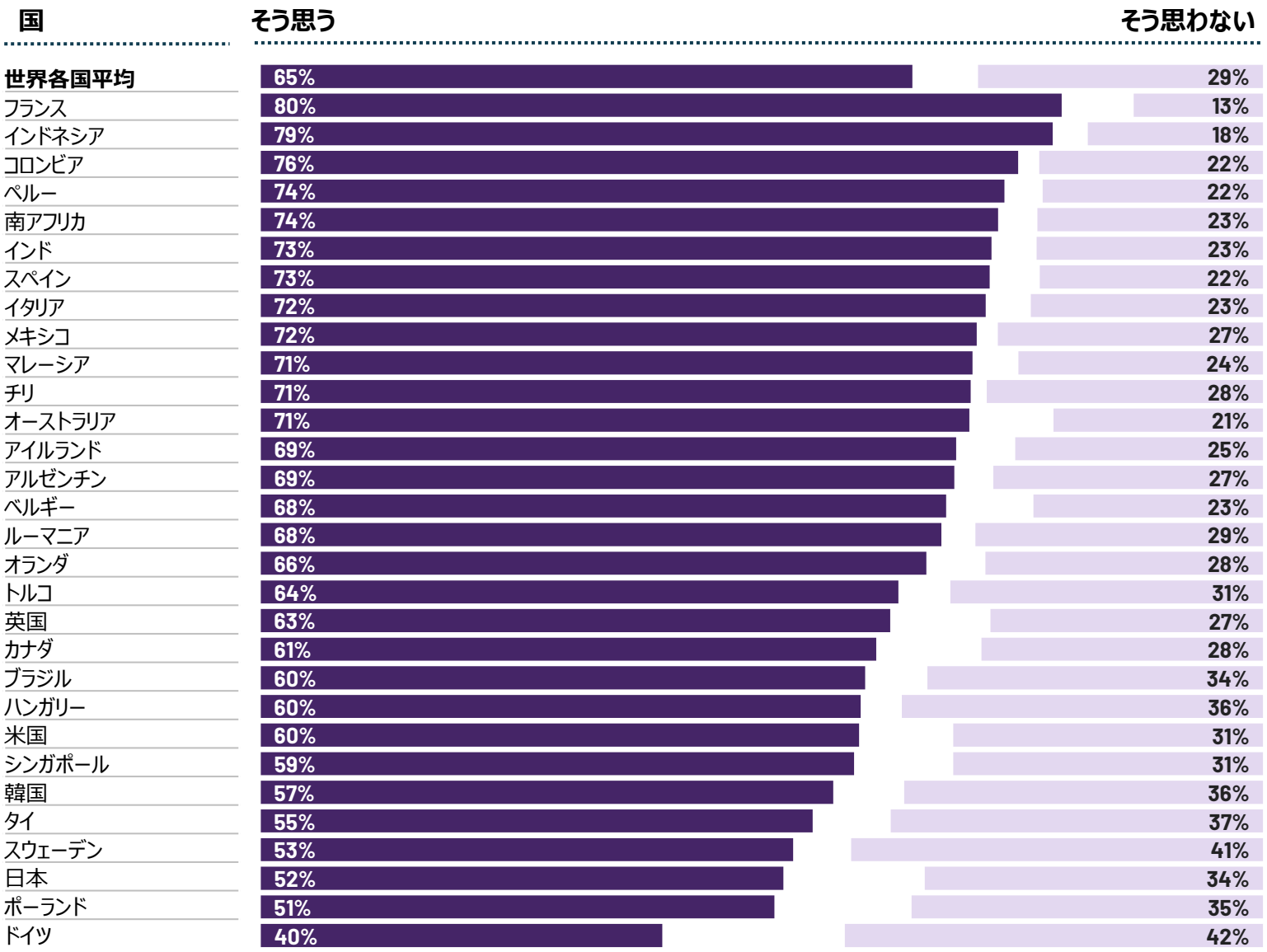


ベース: 75歳未満の成人23,754人、2024年6月21日～7月5日にインタビュー。一部の国や地域のサンプルは、一般人口に比べ、より都市部に住み、教育水準が高く、裕福である。

© イプソス教育モニター 2024

次の各記述にどの程度同意できますか?

- 14歳未満の子供に対しては、学校内外でソーシャルメディアの使用を禁止する必要がある



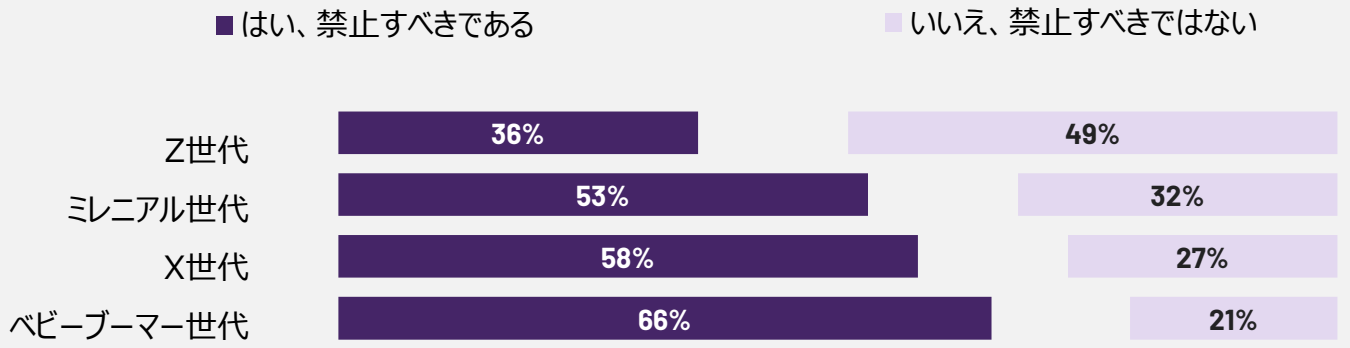
ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

© イプソス教育モニター 2024

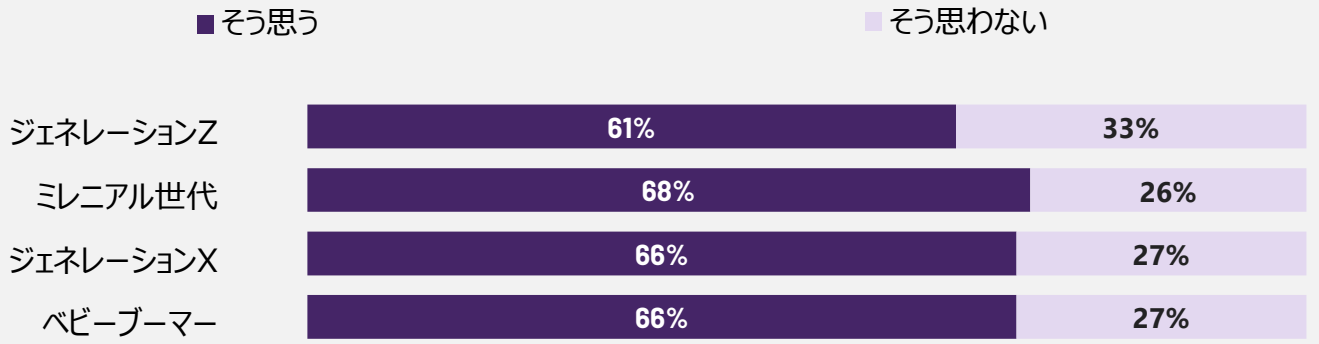
学校でのスマートフォンの使用禁止に対する支持は、世代によって明確に分かれています。しかし、14歳未満の子どもによるソーシャルメディアの使用を禁止することについては、より多くの合意が得られています。

ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

スマートフォンの学校での使用は禁止されるべきだと思いますか？



14歳未満の子供に対しては、学校内外でSNSの使用を禁止する必要がある



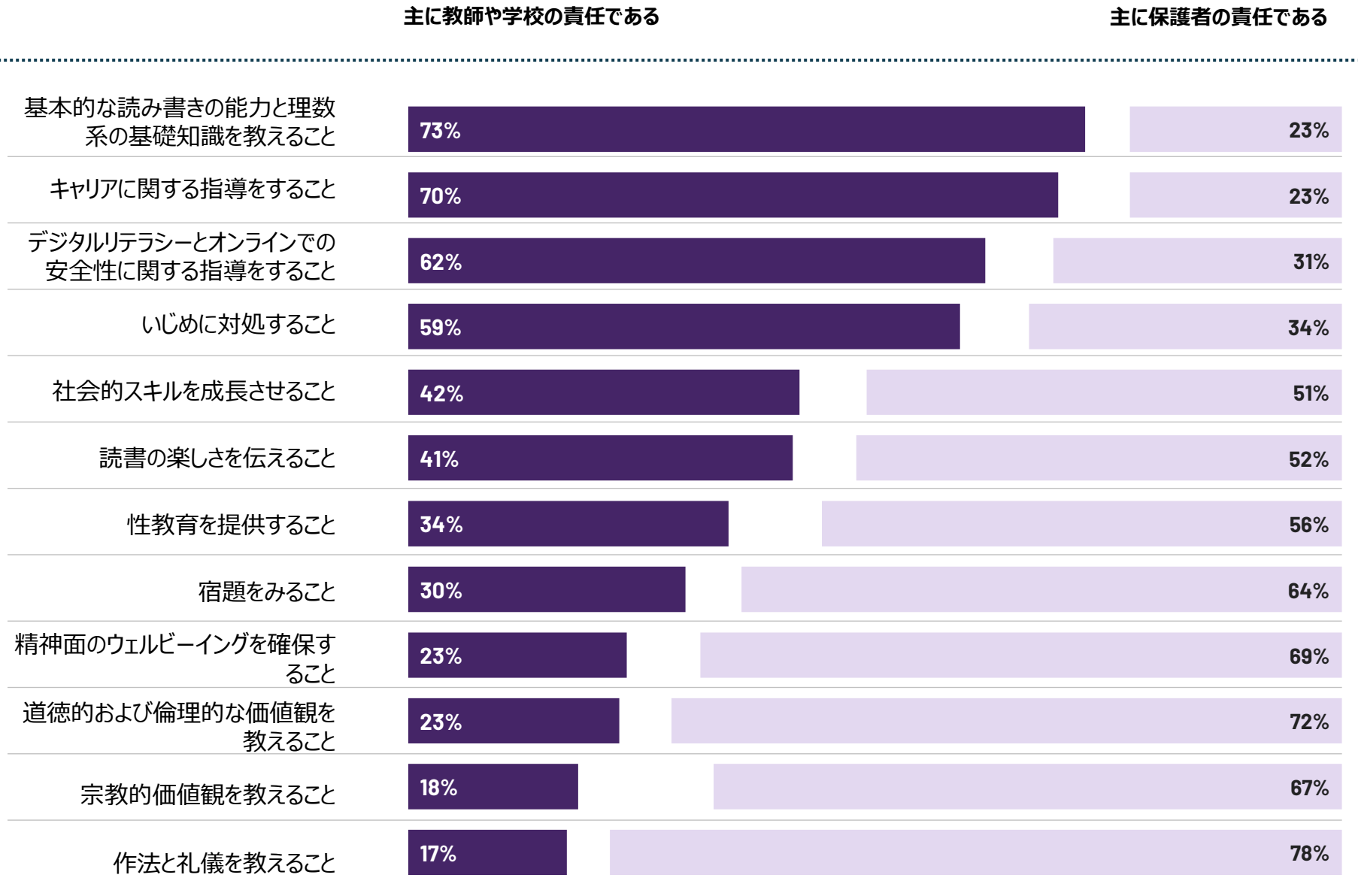
© イプソス教育モニター 2024

教師に対する期待

© Ipsos Education Monitor 2024

次の各分野については、教師や学校と保護者のどちらが主に責任を負うべきだと思いますか？

30カ国平均

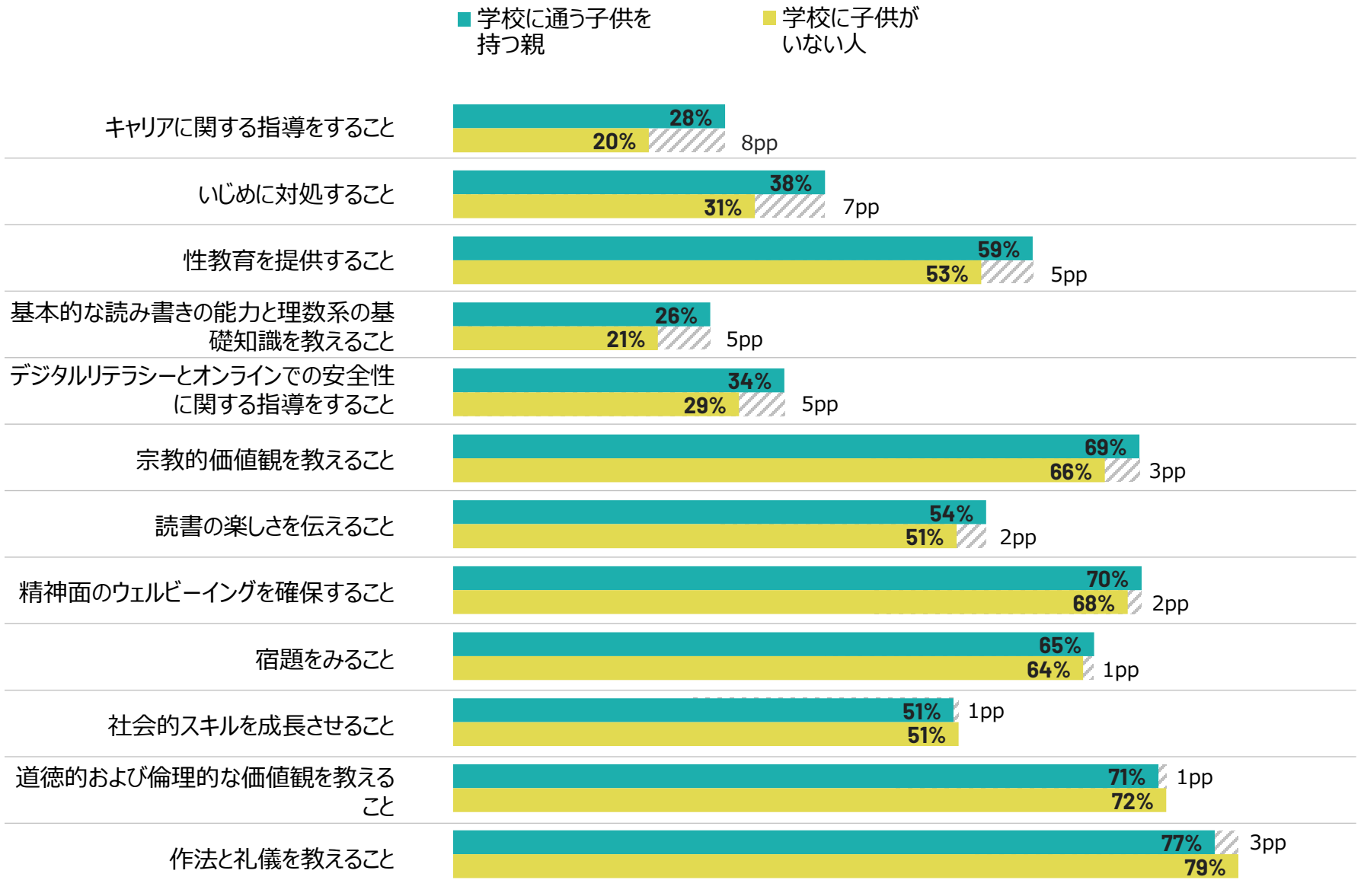


ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

© イプソス教育モニター 2024

30カ国全体で、一般的に、学校に子どもを通わせている親は、子どもを学校に通わせていない人に比べ自分たちに大きな責任があると考えています。

（主に保護者の責任であるとする割合）

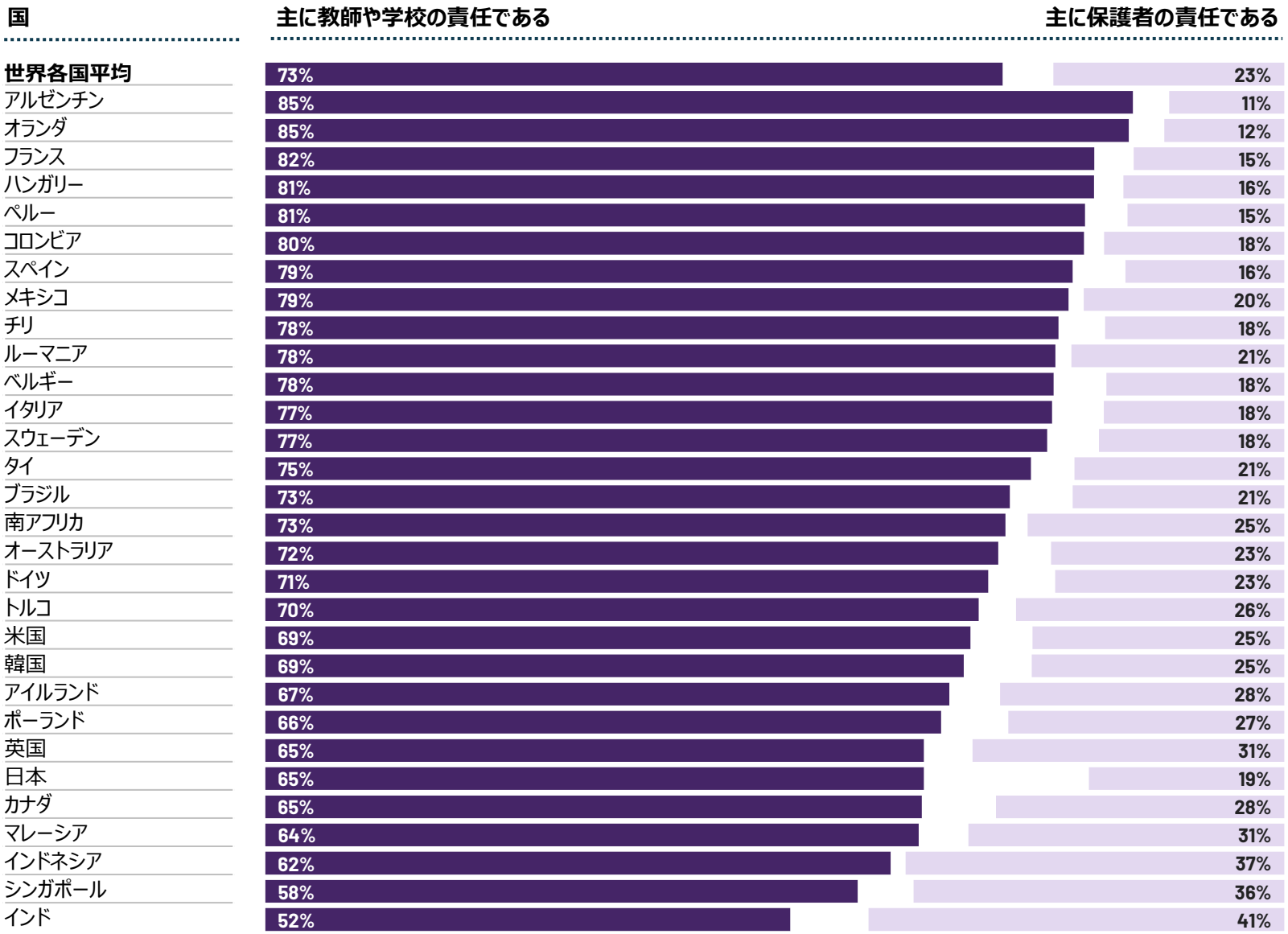


ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。ル。

© イプソス教育モニター 2024

次の各分野については、教師や学校と保護者のどちらが主に責任を負うべきだと思いますか？

-基本的な読み書きの能力と理数系の基礎知識を教えること



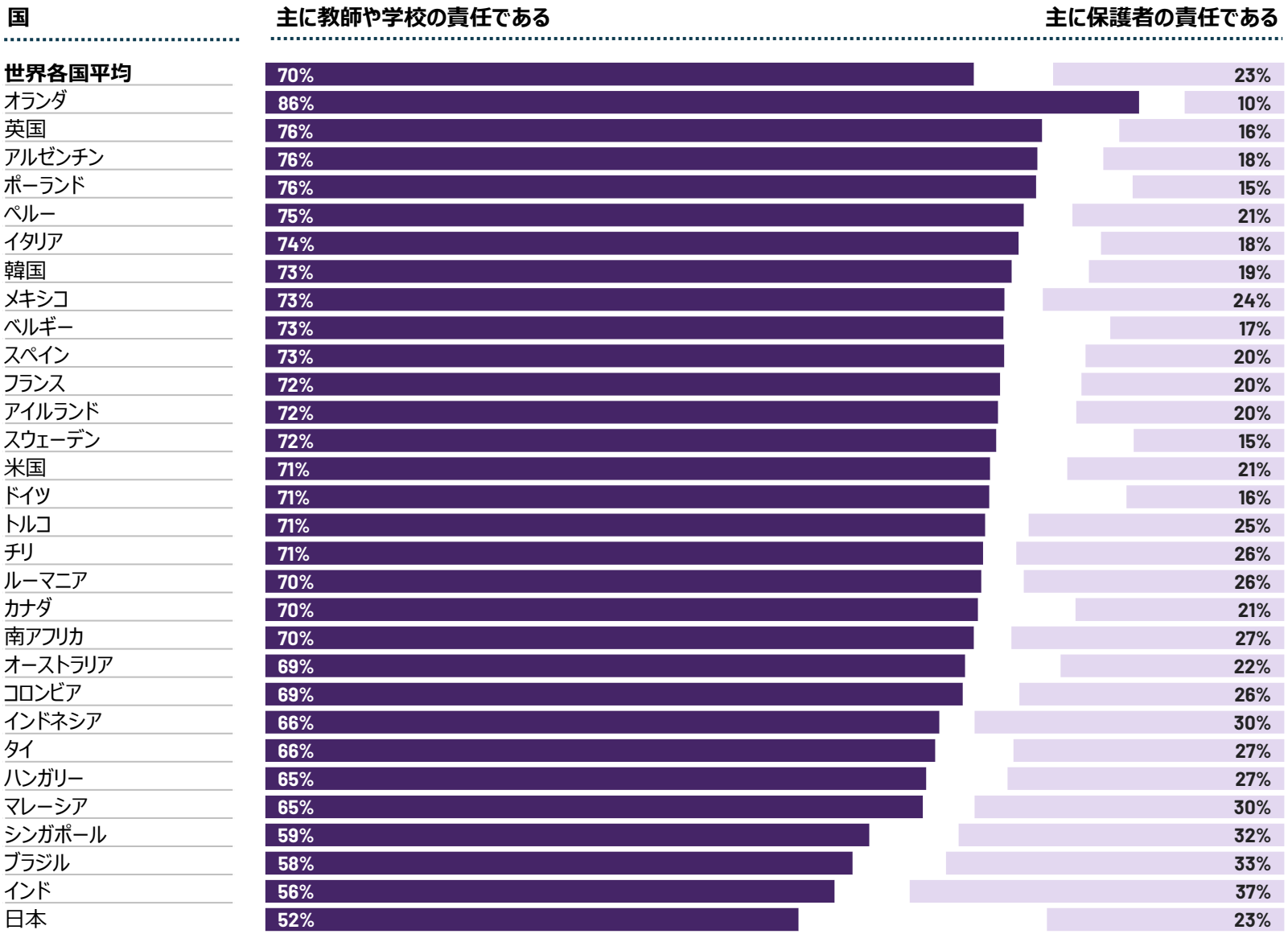
ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

© イプソス教育モニター 2024

次の各分野については、教師や学校と保護者のどちらが主に責任を負うべきだと思いますか？

-キャリアに関する指導をすること

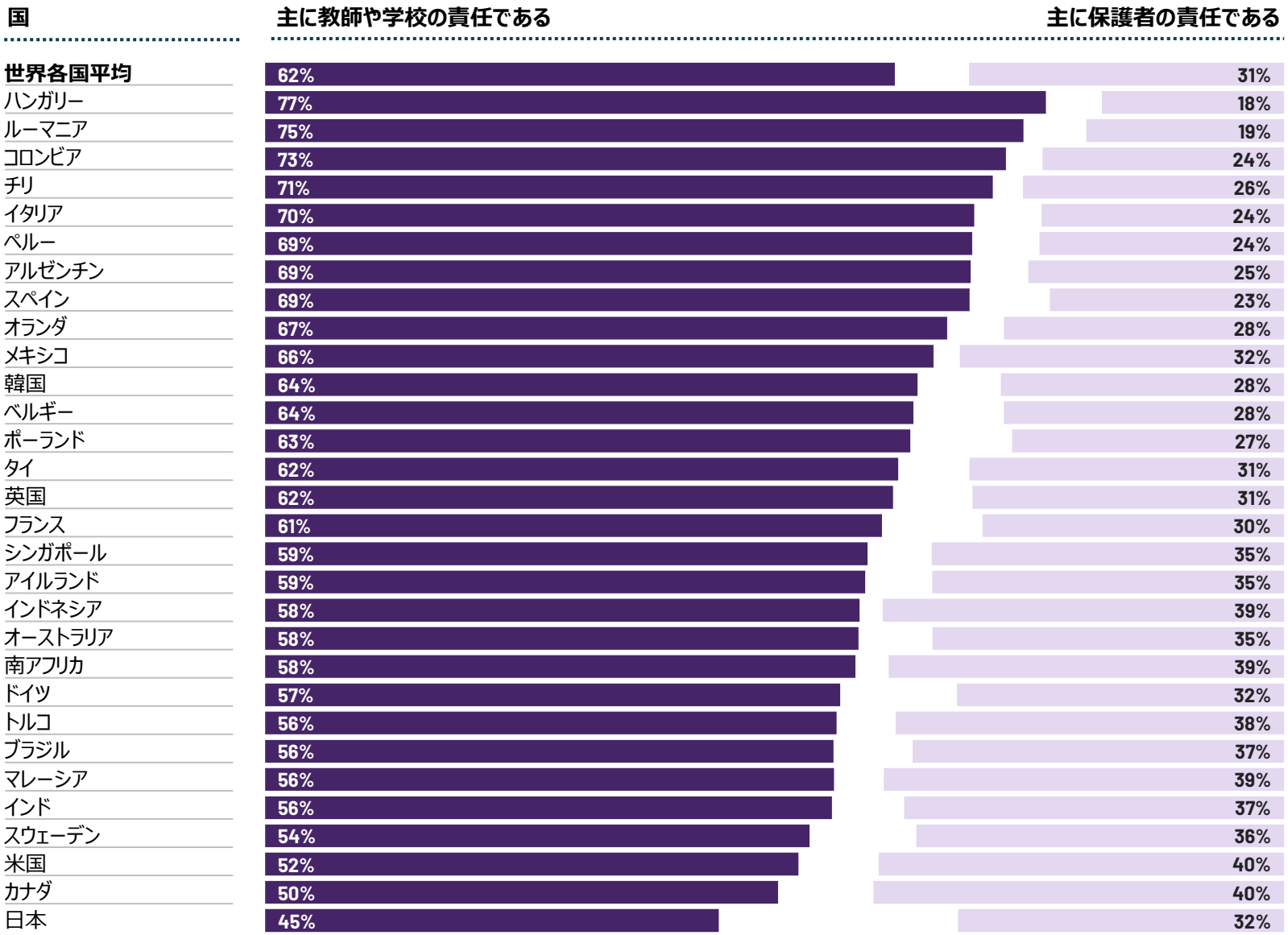
ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。



© イプソス教育モニター 2024

次の各分野については、教師や学校と保護者のどちらが主に責任を負うべきだと思いますか？

-デジタルリテラシーとオンラインでの安全性に関する指導をすること



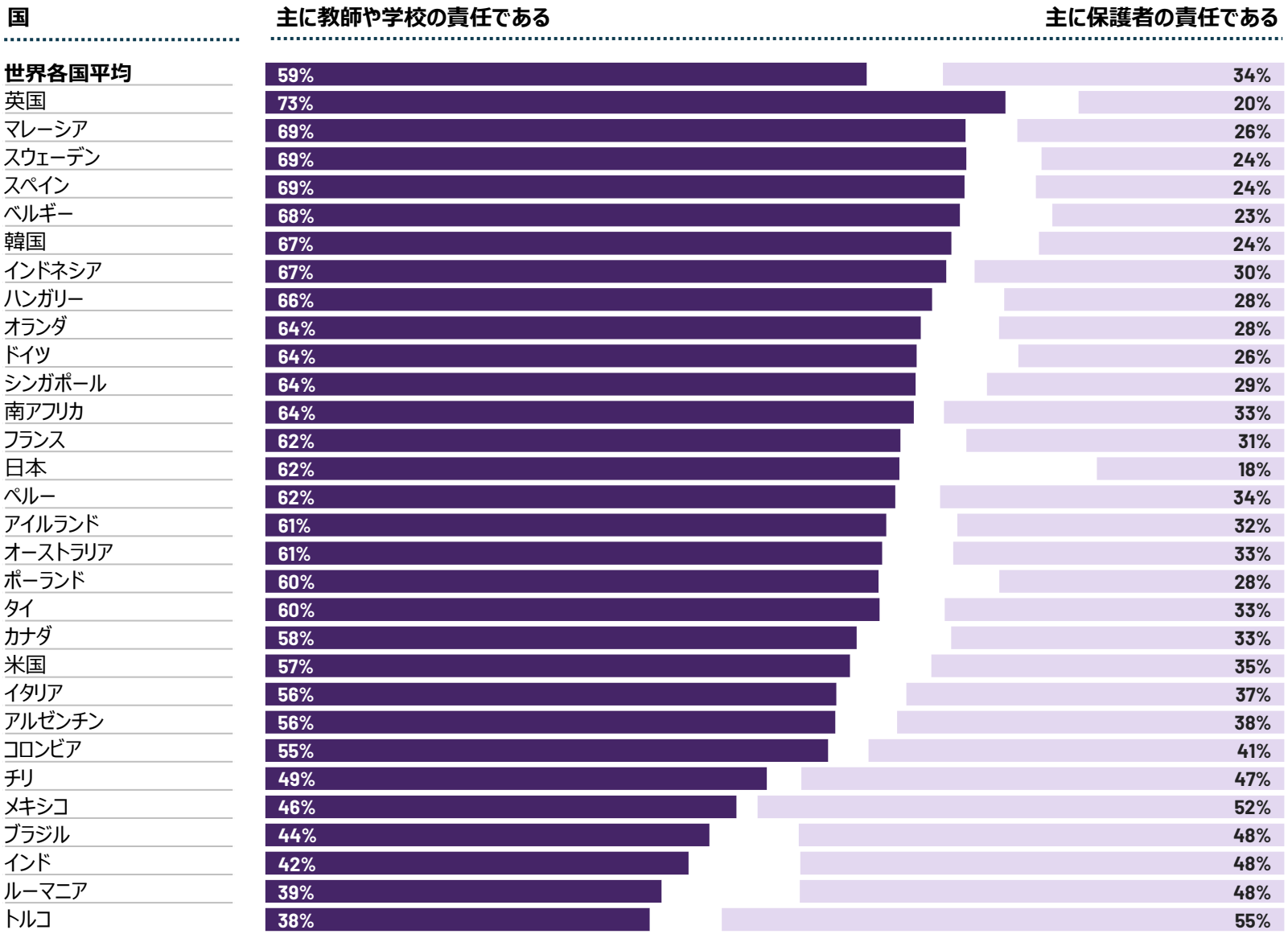
ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

© イプソス教育モニター 2024

次の各分野については、教師や学校と保護者のどちらが主に責任を負うべきだと思いますか？

-いじめに対処すること

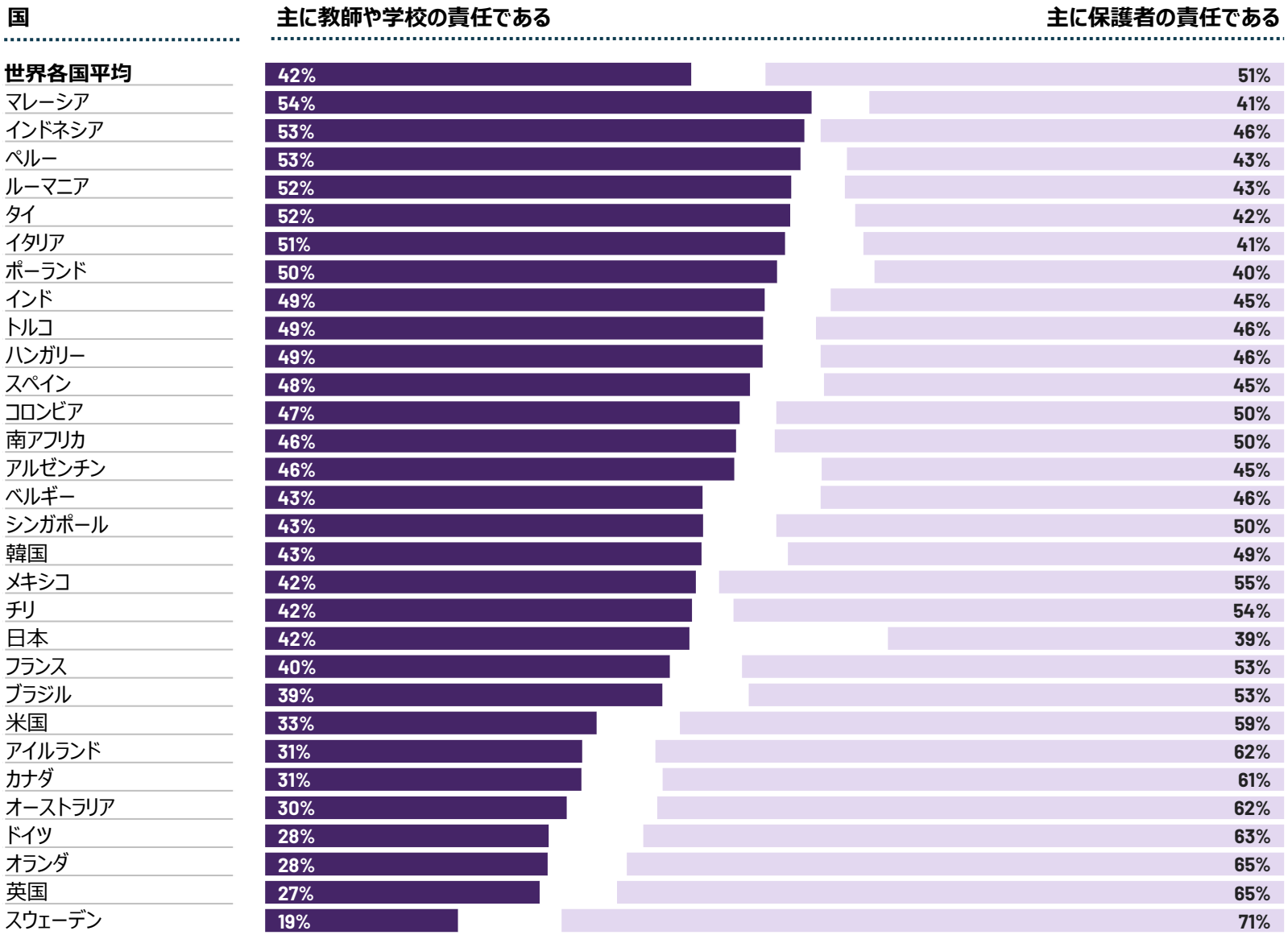
ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。



© イプソス教育モニター 2024

次の各分野については、教師や学校と保護者のどちらが主に責任を負うべきだと思いますか？

-社会的スキルを成長させること

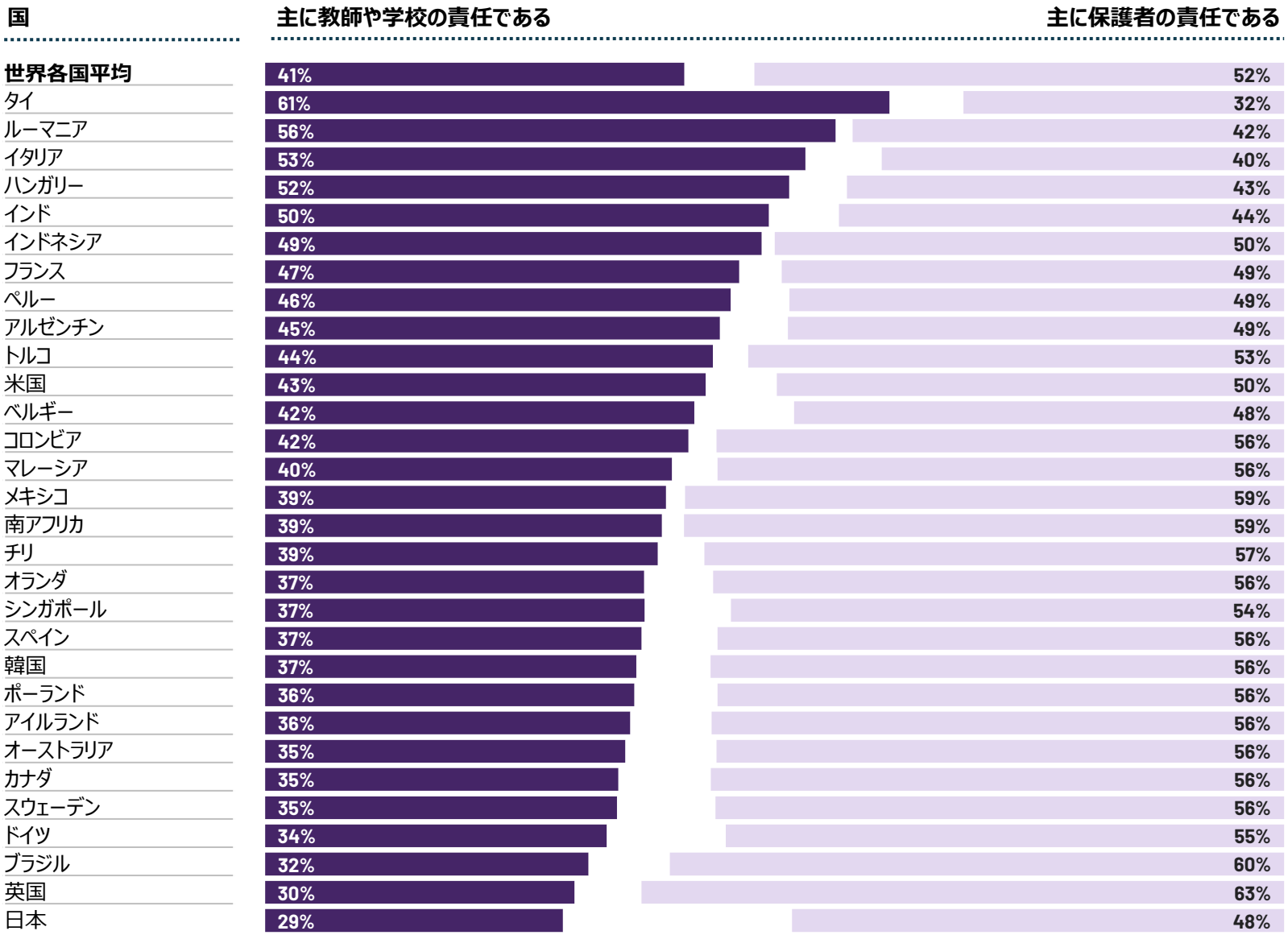


ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

© イプソス教育モニター 2024

次の各分野については、教師や学校と保護者のどちらが主に責任を負うべきだと思いますか？

-読書の楽しさを伝えること

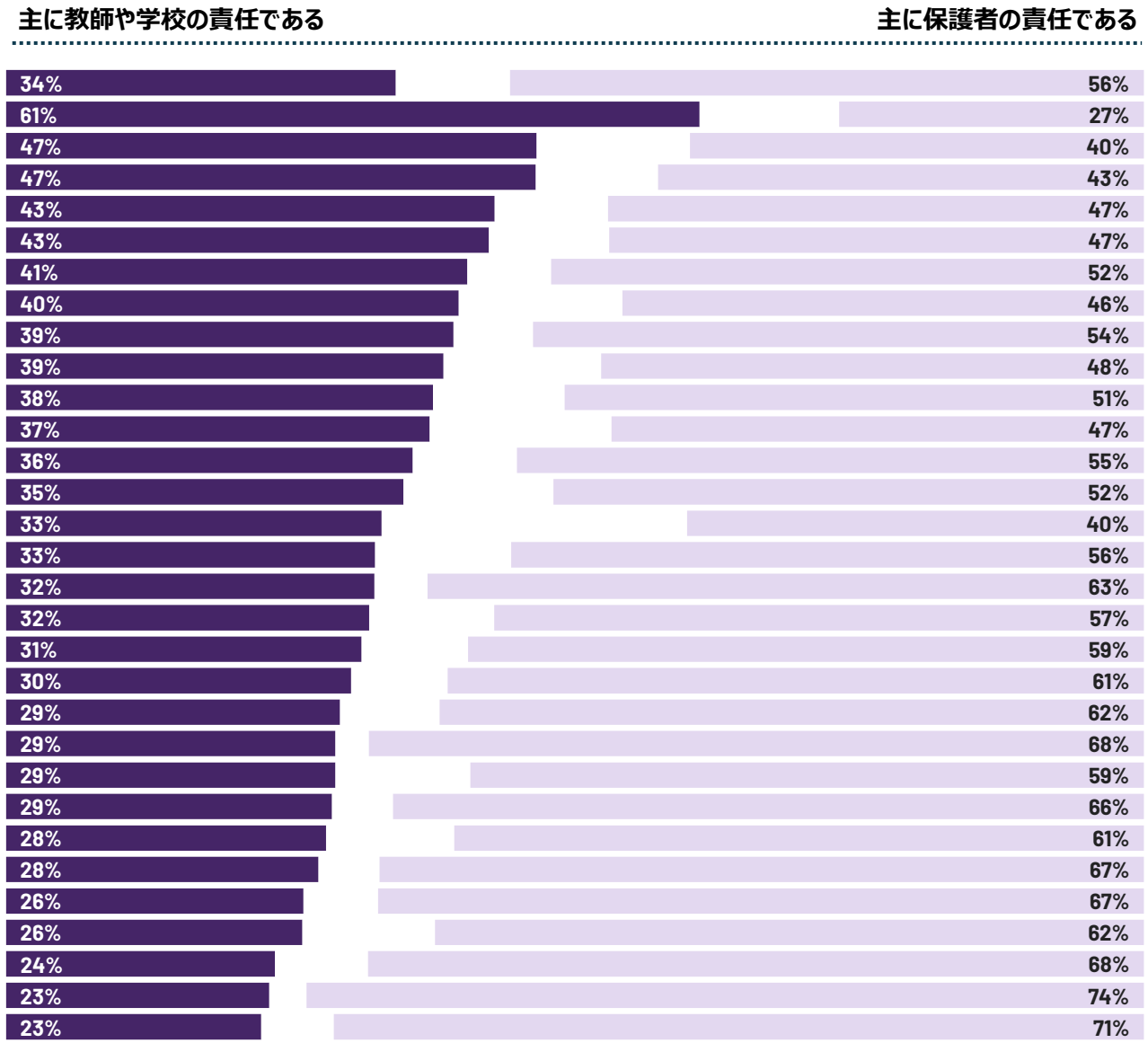


ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

© イプソス教育モニター 2024

次の各分野については、教師や学校と保護者のどちらが主に責任を負うべきだと思いますか？

-性教育を提供すること

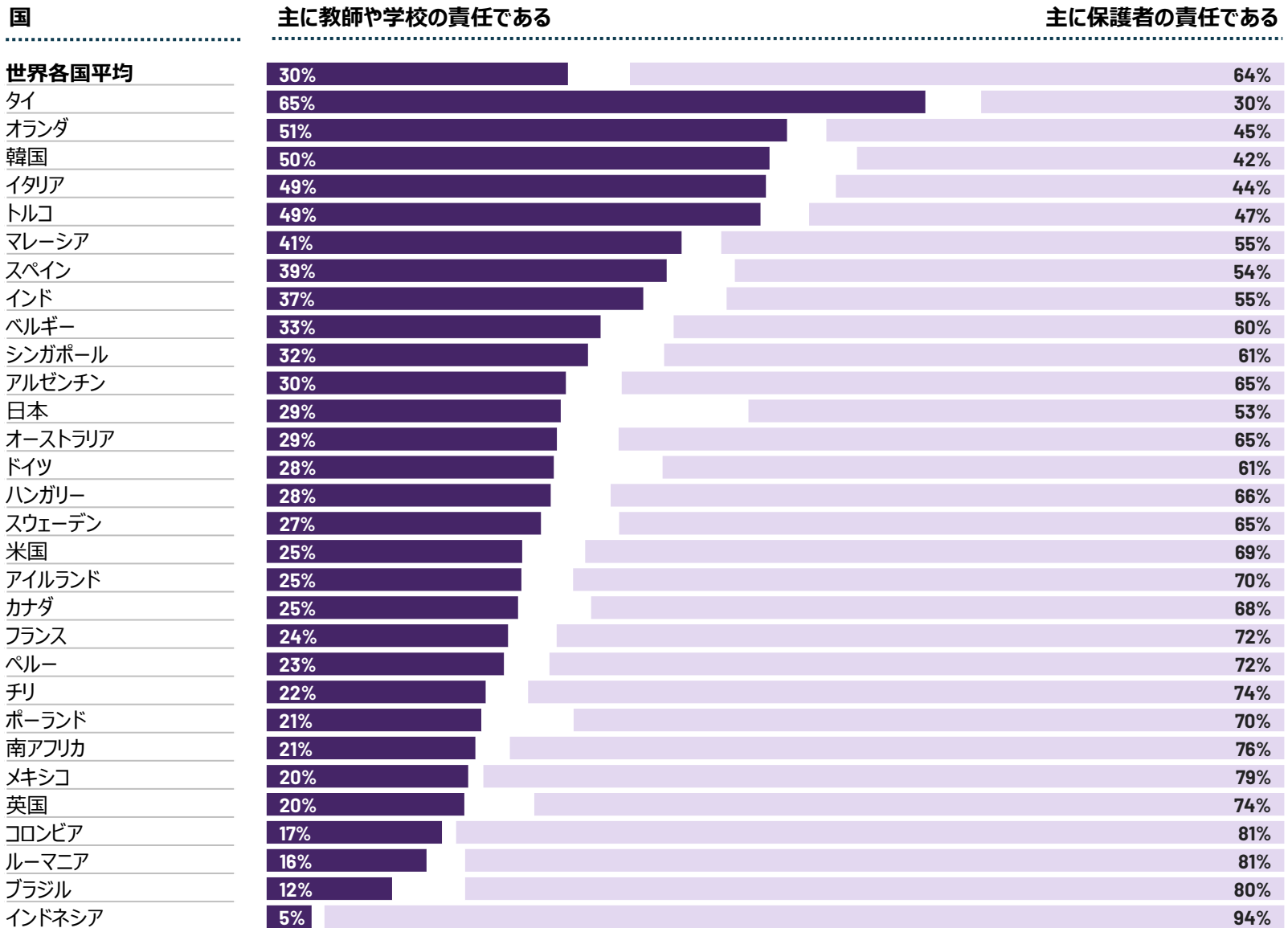


ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

© イプソス教育モニター 2024

次の各分野については、教師や学校と保護者のどちらが主に責任を負うべきだと思いますか？

- 宿題をみること



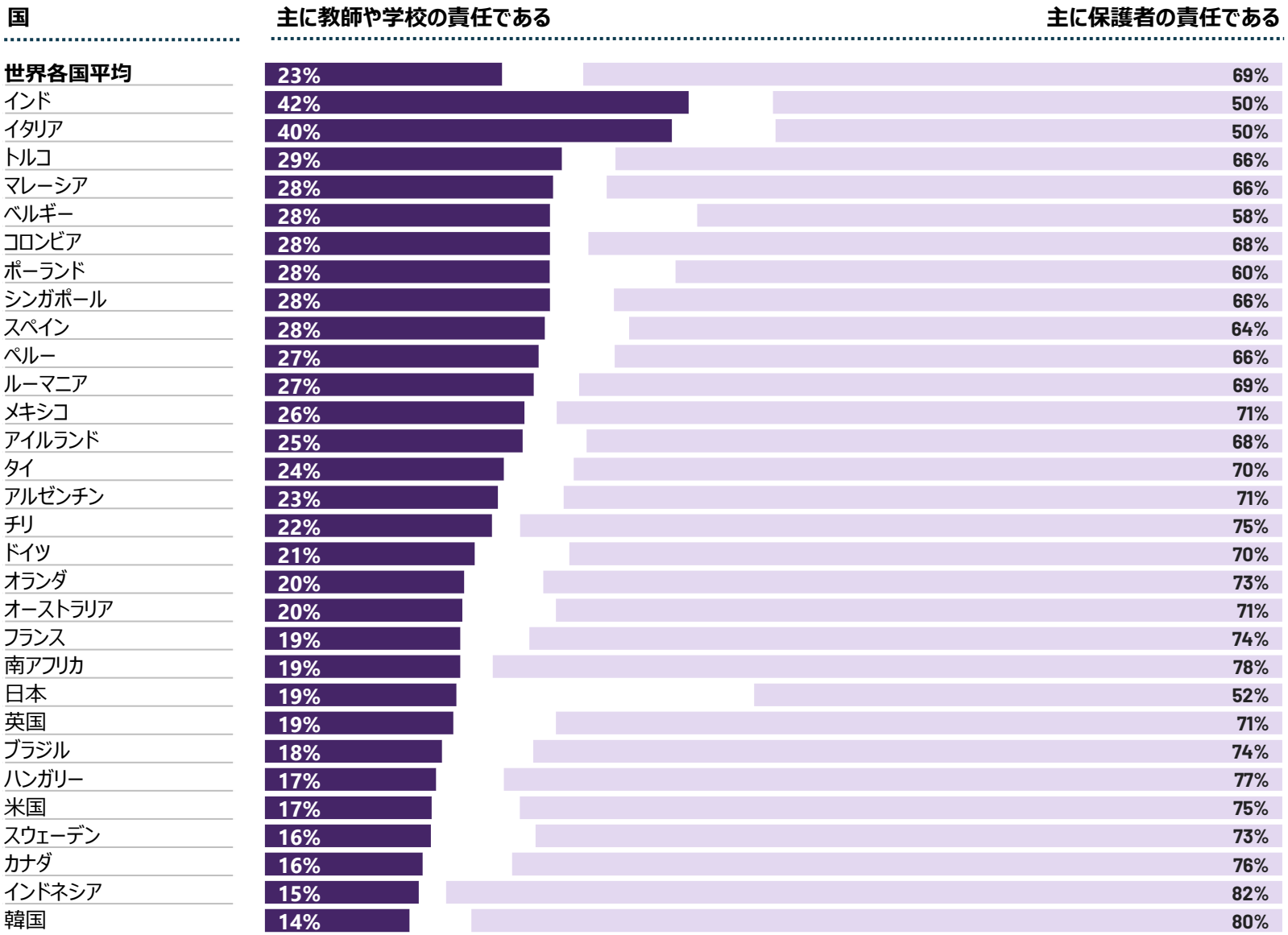
ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

© イプソス教育モニター 2024

次の各分野については、教師や学校と保護者のどちらが主に責任を負うべきだと思いますか？

-精神面のウェルビーイングを確保すること

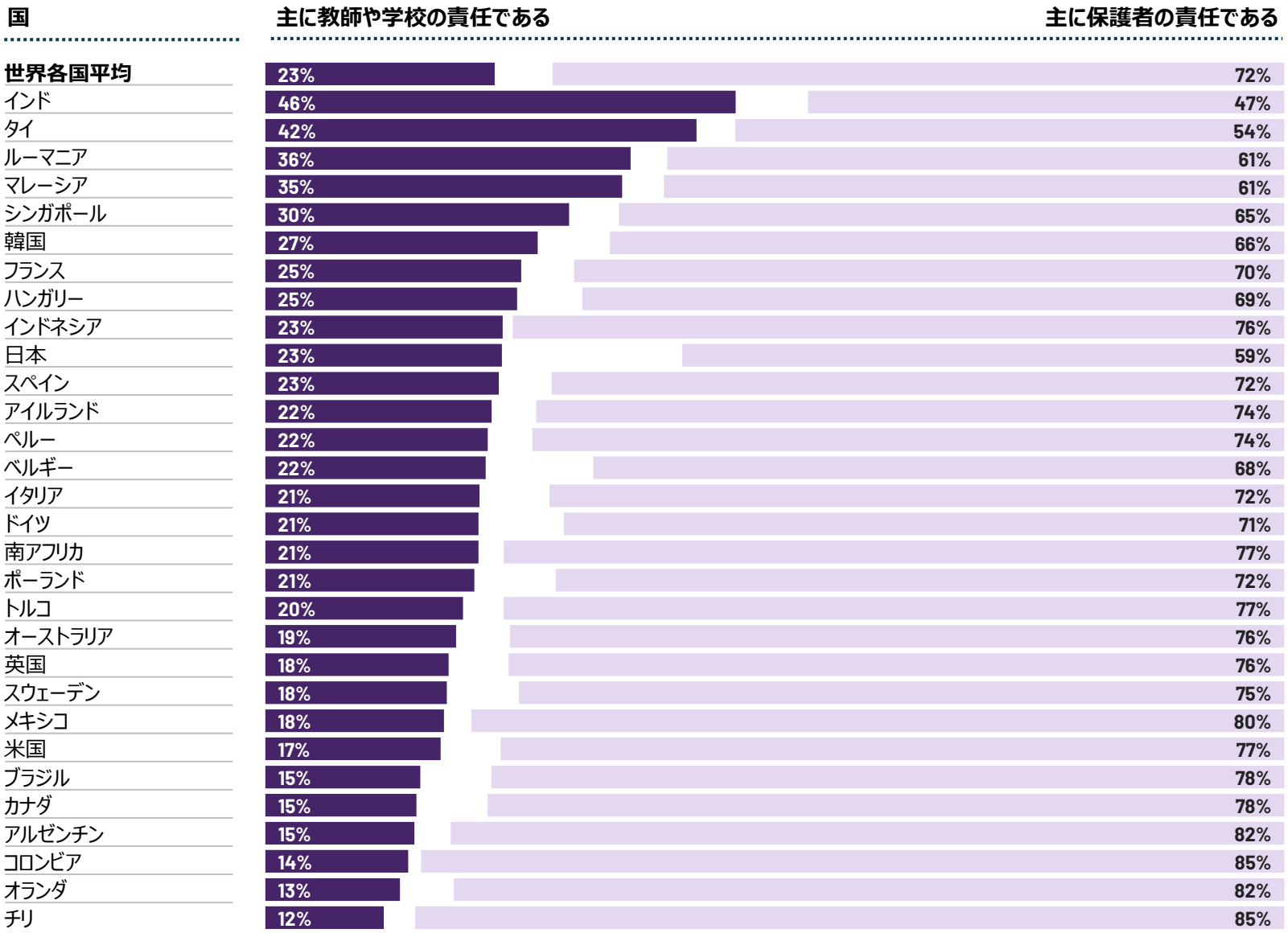
ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。



© イプソス教育モニター 2024

次の各分野については、教師や学校と保護者のどちらが主に責任を負うべきだと思いますか？

-道徳的および倫理的な価値観を教えること



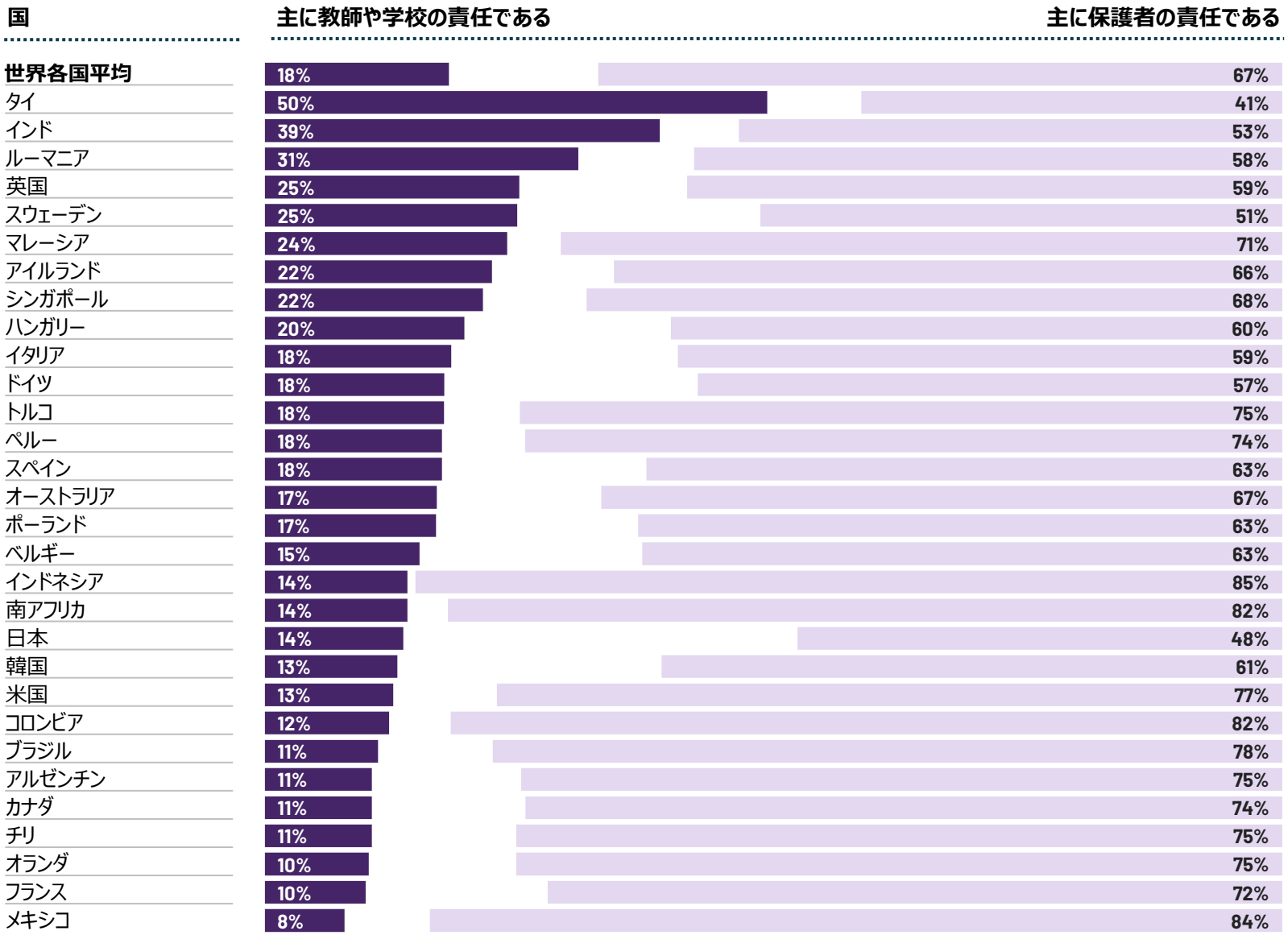
ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

© イプソス教育モニター 2024

次の各分野については、教師や学校と保護者のどちらが主に責任を負うべきだと思いますか？

- 宗教的価値観を教えること

ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

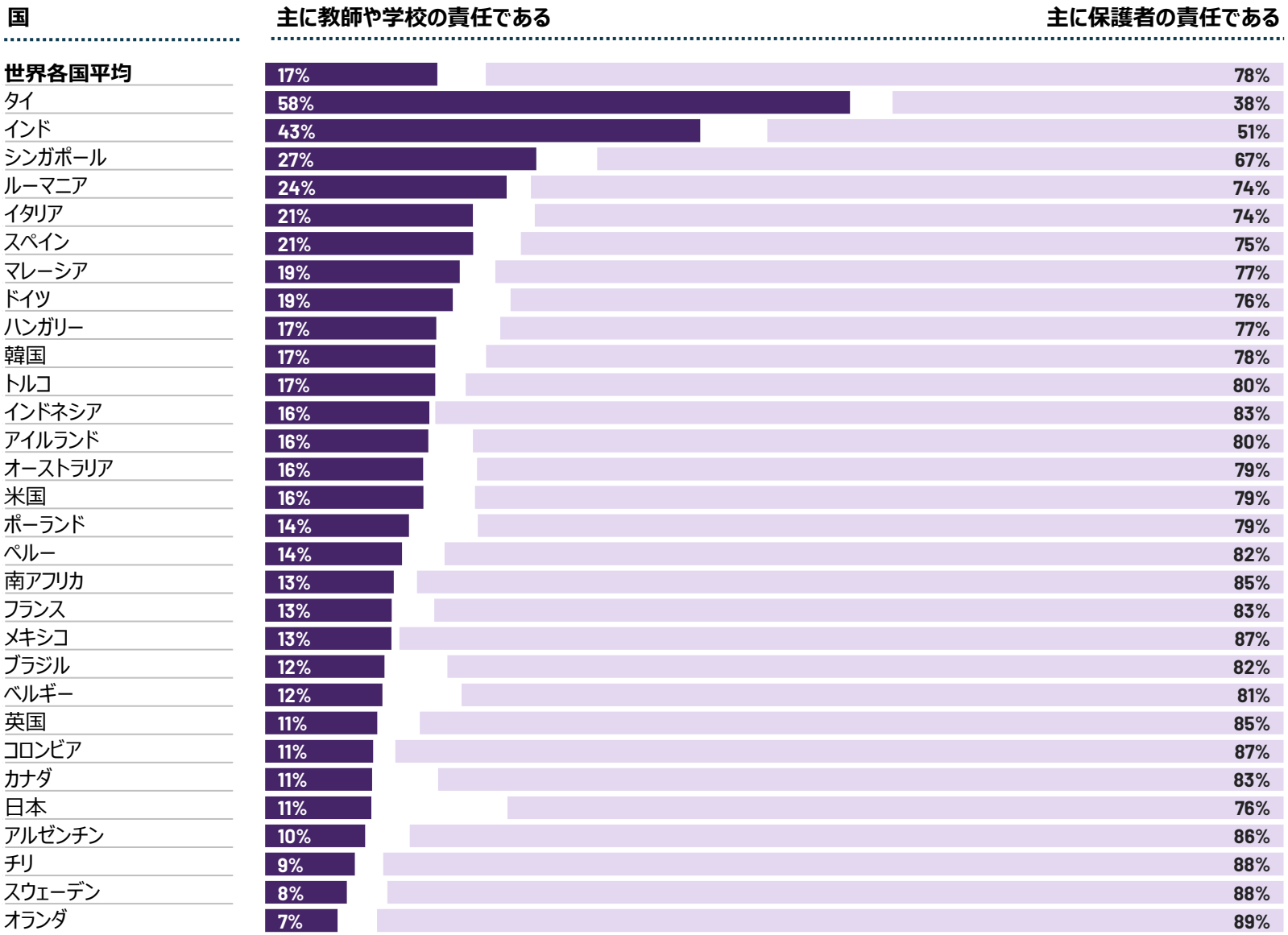


© イプソス教育モニター 2024

次の各分野については、教師や学校と保護者のどちらが主に責任を負うべきだと思いますか？

- 作法と礼儀を教える

ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。



© イプソス教育モニター 2024

あなたの国の学校は現在、**暴力やいじめのない安全な場所を提供していると思いますか？**

国	はい、完全に同意する	はい、ある程度同意する	いいえ、あまり同意しない	いいえ、まったく同意しない	はい	いいえ
世界各国平均	15%	30%	33%	15%	45%	48%
マレーシア	33%	41%	14%	6%	74%	20%
インド	35%	34%	16%	9%	69%	25%
タイ	18%	49%	22%	3%	67%	25%
シンガポール	19%	47%	21%	4%	67%	25%
メキシコ	24%	34%	29%	12%	58%	41%
インドネシア	35%	21%	29%	11%	56%	40%
アイルランド	16%	38%	27%	9%	55%	36%
ルーマニア	19%	29%	36%	10%	48%	46%
オーストラリア	13%	34%	32%	12%	47%	45%
アルゼンチン	18%	29%	32%	14%	47%	46%
ペルー	18%	29%	32%	14%	47%	47%
米国	16%	30%	34%	13%	46%	47%
南アフリカ	17%	28%	33%	19%	45%	52%
チリ	15%	31%	36%	16%	45%	52%
カナダ	11%	34%	34%	12%	45%	46%
コロンビア	18%	26%	36%	17%	44%	54%
オランダ	12%	31%	33%	9%	43%	42%
英国	11%	31%	32%	12%	42%	44%
スペイン	14%	28%	37%	16%	42%	53%
トルコ	16%	26%	29%	22%	42%	51%
ハンガリー	7%	33%	35%	19%	39%	54%
イタリア	8%	30%	39%	16%	37%	54%
ポーランド	7%	31%	38%	13%	37%	51%
ベルギー	9%	25%	42%	13%	34%	55%
韓国	8%	23%	43%	22%	31%	65%
スウェーデン	6%	25%	40%	23%	31%	62%
ブラジル	10%	19%	34%	29%	29%	63%
ドイツ	11%	17%	38%	26%	27%	64%
フランス	7%	20%	43%	26%	26%	69%
日本	3%	20%	41%	19%	24%	60%

ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

© イプソス教育モニター 2024

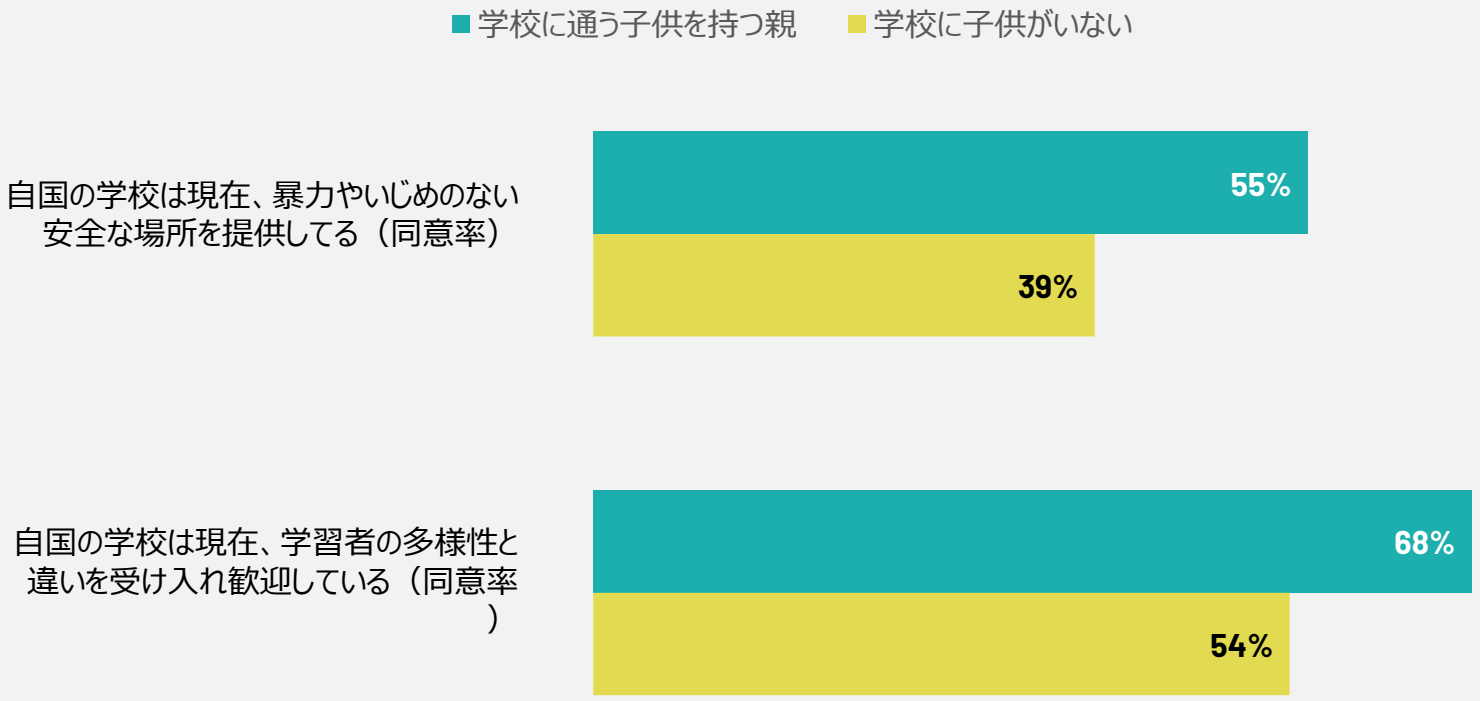
あなたの国の学校は現在、**学習者の多様性とそれぞれの違いを受け入れ、歓迎していると思いますか？**

ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

国	はい、完全に同意する	はい、ある程度同意する	いいえ、あまり同意しない	いいえ、まったく同意しない	はい	いいえ
世界各国平均	18%	41%	24%	8%	59%	32%
タイ	21%	56%	14%	4%	77%	17%
インドネシア	42%	34%	19%	4%	76%	23%
シンガポール	19%	55%	17%	3%	74%	19%
マレーシア	31%	42%	15%	5%	73%	19%
アイルランド	20%	52%	17%	3%	72%	20%
南アフリカ	26%	44%	19%	7%	71%	26%
メキシコ	22%	46%	21%	8%	68%	28%
インド	35%	32%	18%	10%	67%	27%
オーストラリア	17%	49%	19%	5%	67%	24%
カナダ	21%	44%	18%	5%	65%	23%
アルゼンチン	18%	46%	15%	11%	65%	26%
英国	19%	45%	16%	5%	64%	21%
スウェーデン	19%	44%	18%	7%	63%	25%
米国	20%	43%	22%	5%	63%	27%
チリ	14%	49%	22%	10%	62%	32%
コロンビア	22%	39%	25%	11%	60%	36%
スペイン	19%	41%	25%	8%	60%	33%
オランダ	19%	41%	21%	4%	59%	25%
ベルギー	14%	44%	20%	8%	58%	27%
イタリア	12%	45%	27%	7%	58%	34%
ペルー	15%	42%	29%	9%	57%	38%
ルーマニア	11%	41%	32%	9%	52%	40%
フランス	14%	35%	32%	11%	49%	42%
ブラジル	15%	32%	31%	14%	47%	44%
トルコ	14%	32%	32%	18%	45%	50%
ポーランド	8%	37%	34%	9%	45%	43%
ドイツ	10%	31%	34%	11%	41%	45%
韓国	8%	30%	40%	17%	37%	57%
日本	3%	32%	30%	10%	35%	41%
ハンガリー	6%	29%	36%	20%	35%	55%

© イプソス教育モニター 2024

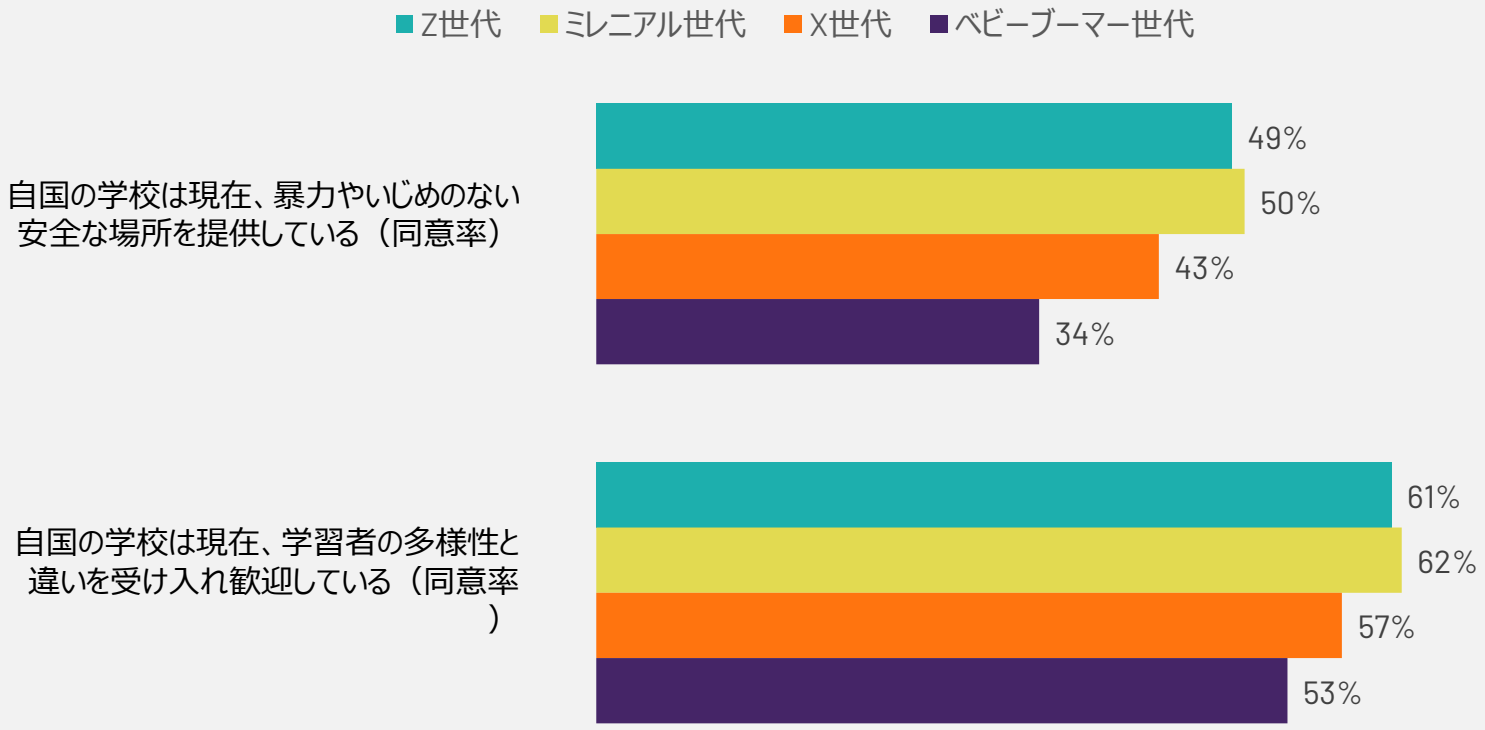
30カ国全体で、学校に通う子供を持つ親は、安全な場所の提供や多様性の受け入れに関して、学校に対してより肯定的な評価をしています。



ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

© イプソス教育モニター 2024

在学経験が新しい若い世代ほど、学校を肯定的に評価する傾向も強いようです。



ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

© イプソス教育モニター 2024

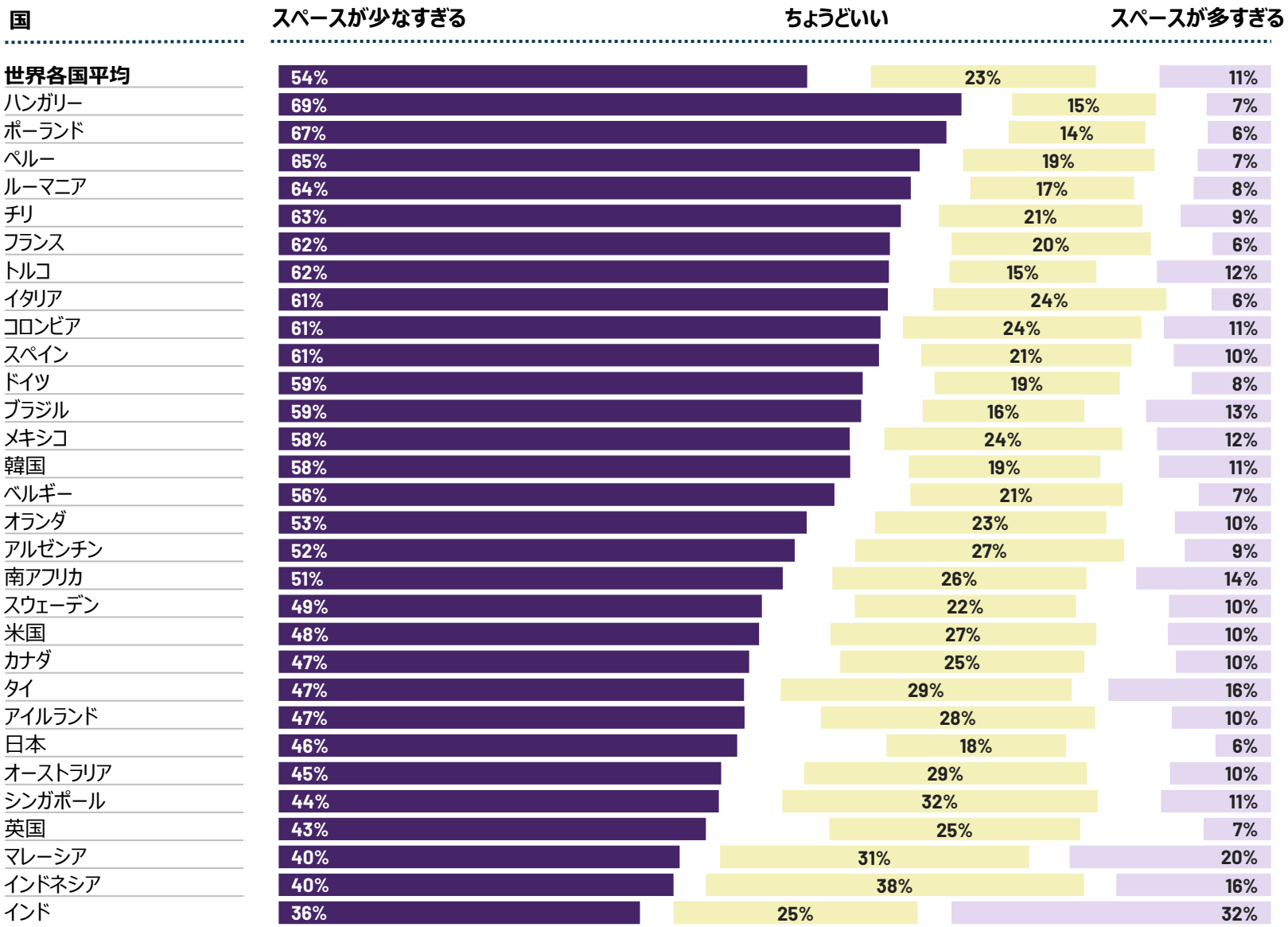
付録

© Ipsos Education Monitor 2024

自国における学校のカリキュラムが、次の各要素のために用意しているスペースは、多すぎる、少なすぎる、ちょうどいい、のいずれに該当すると思いますか？

- **批判的思考を奨励する（問題を分析して判断を下す）**

ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

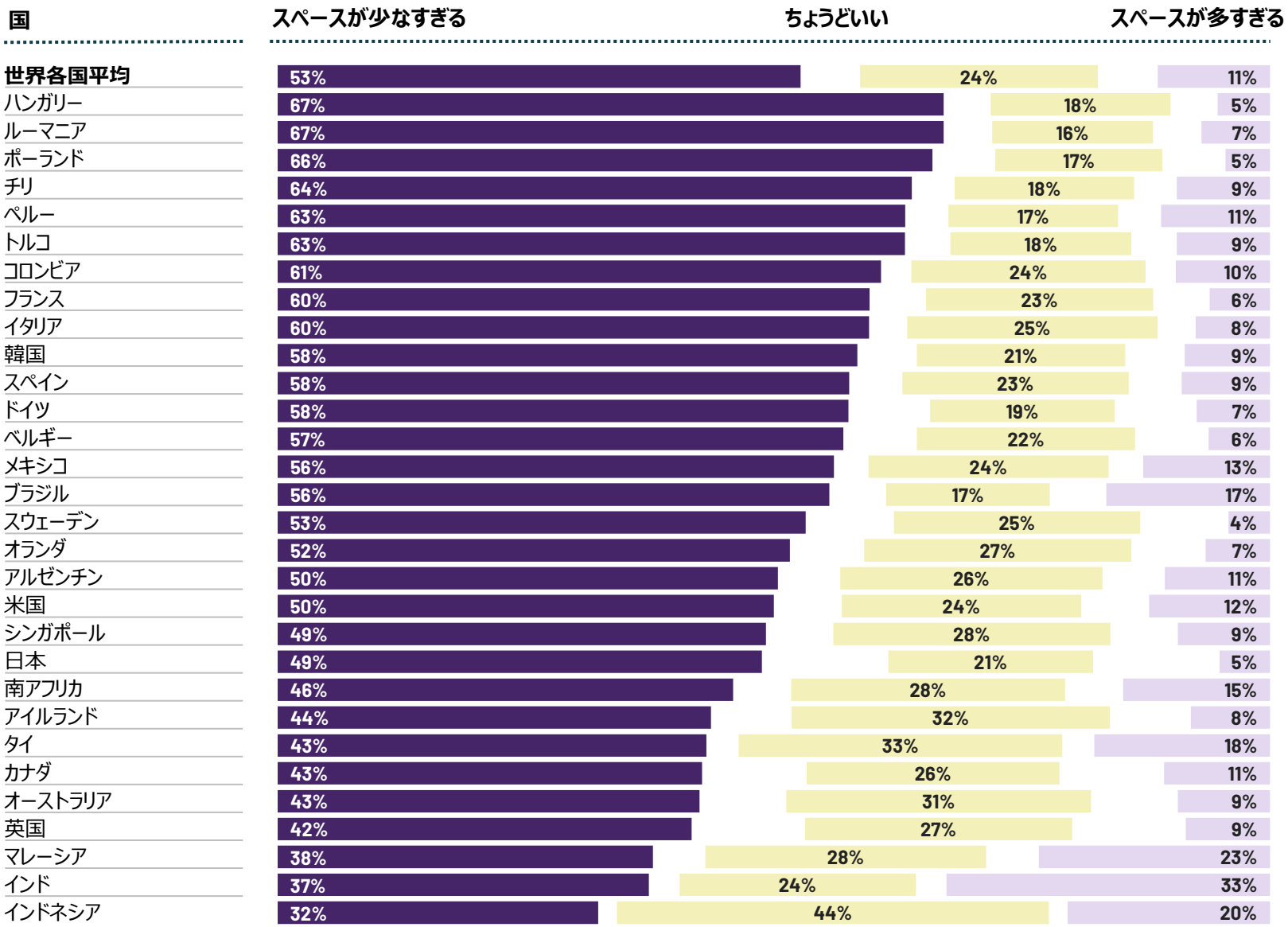


© イプソス教育モニター 2024

自国における学校のカリキュラムが、次の各要素のために用意しているスペースは、多すぎる、少なすぎる、ちょうどいい、のいずれに該当すると思いますか？

- 好奇心を促す

ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

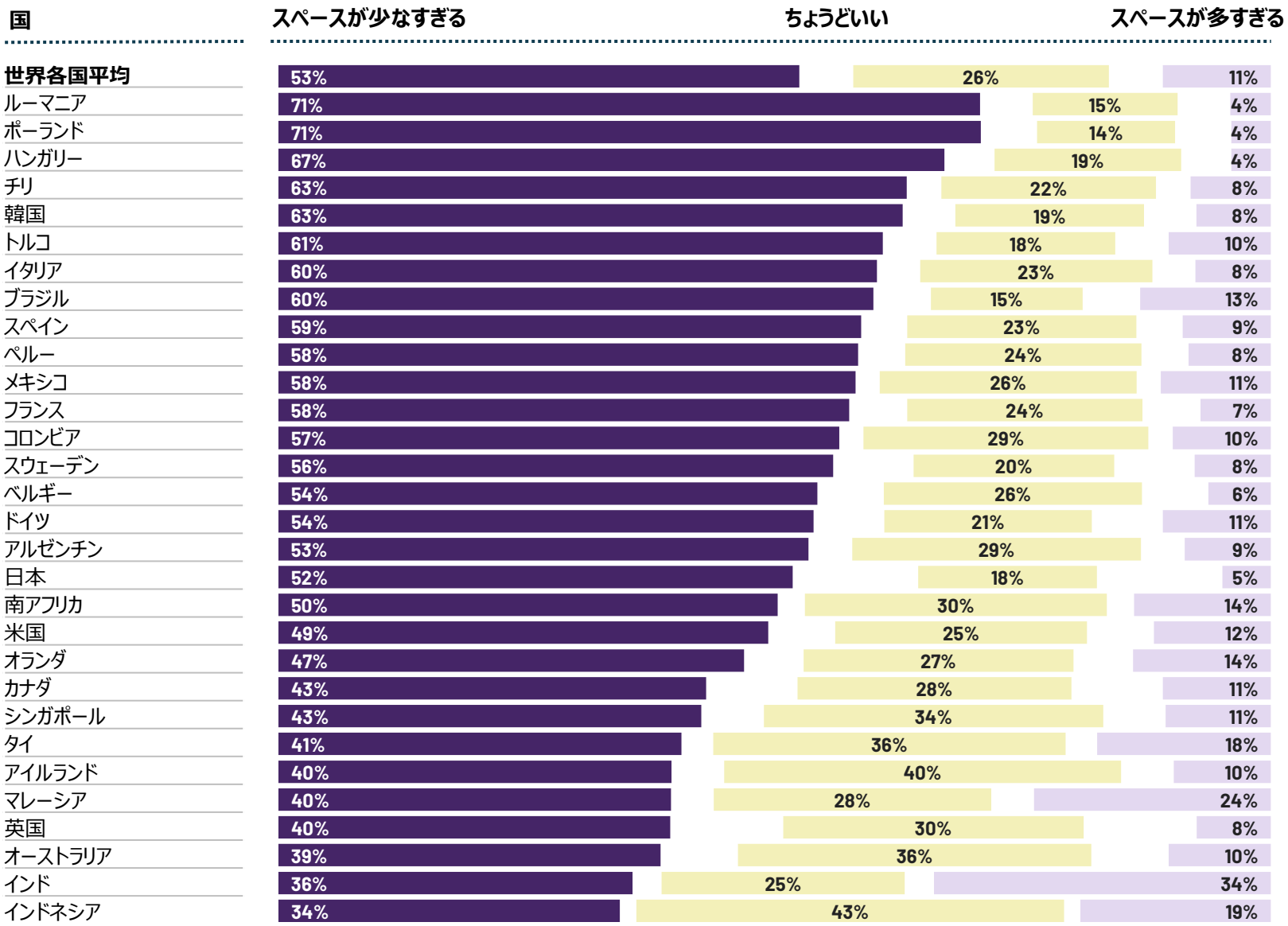


© イプソス教育モニター 2024

自国における学校のカリキュラムが、次の各要素のために用意しているスペースは、多すぎる、少なすぎる、ちょうどいい、のいずれに該当すると思いますか？

- 生徒の創造力を高める

ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

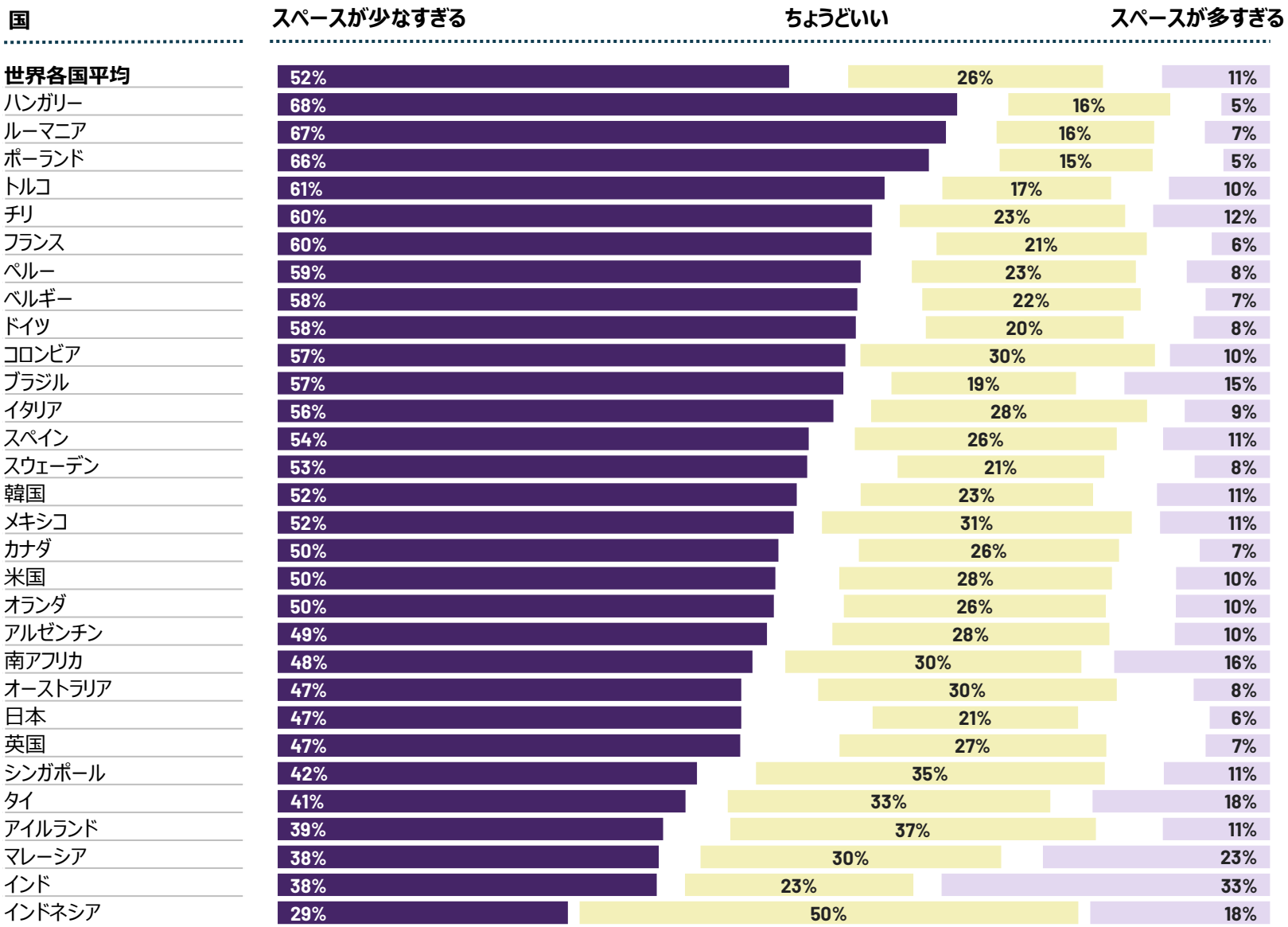


© イプソス教育モニター 2024

自国における学校のカリキュラムが、次の各要素のために用意しているスペースは、多すぎる、少なすぎる、ちょうどいい、のいずれに該当すると思いますか？

- コミュニケーション、組織化などの基本的な能力を伸ばす

ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

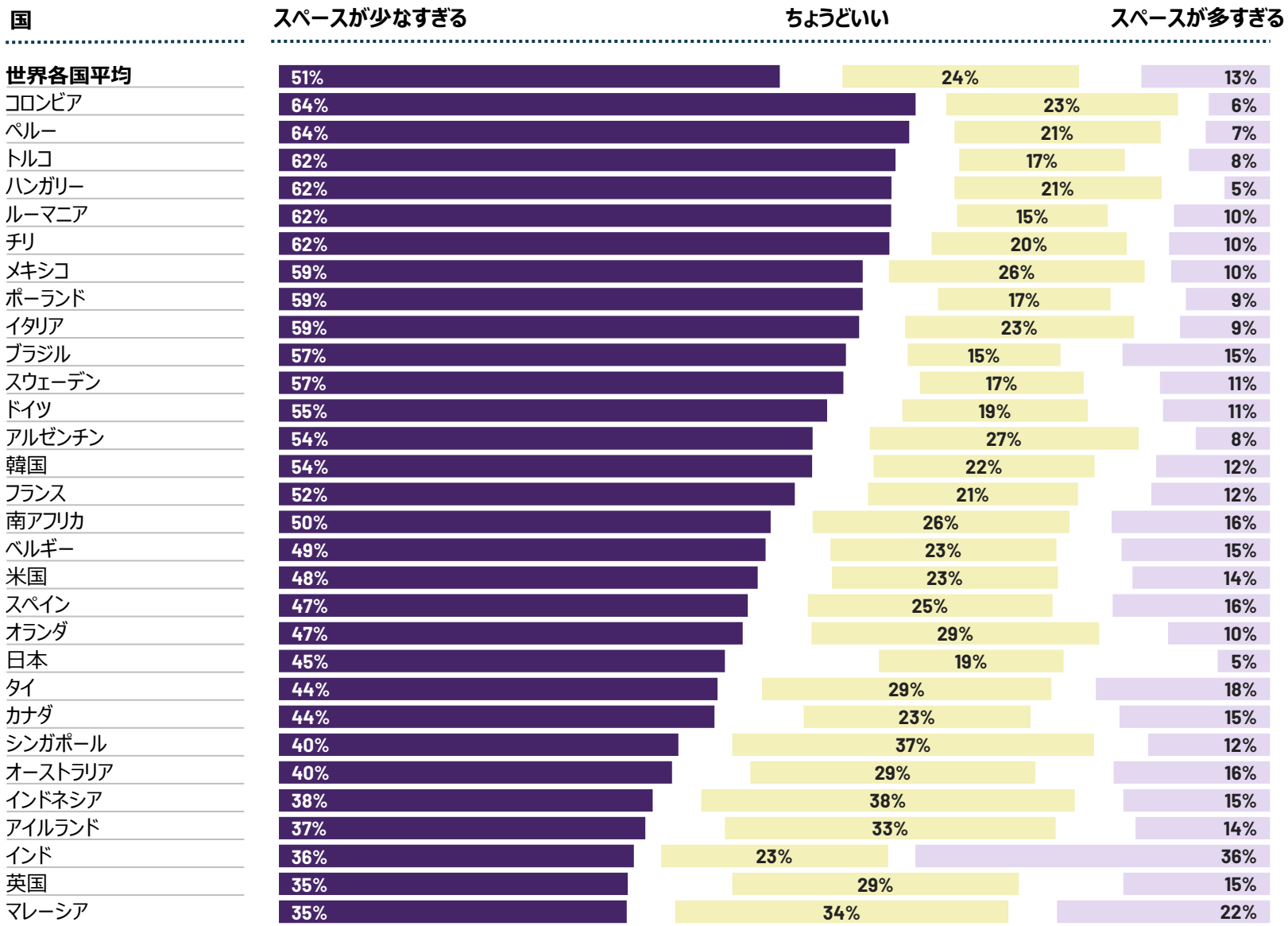


© イプソス教育モニター 2024

自国における学校のカリキュラムが、次の各要素のために用意しているスペースは、多すぎる、少なすぎる、ちょうどいい、のいずれに該当すると思いますか？

- 学生の幸福感に焦点を当てる

ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

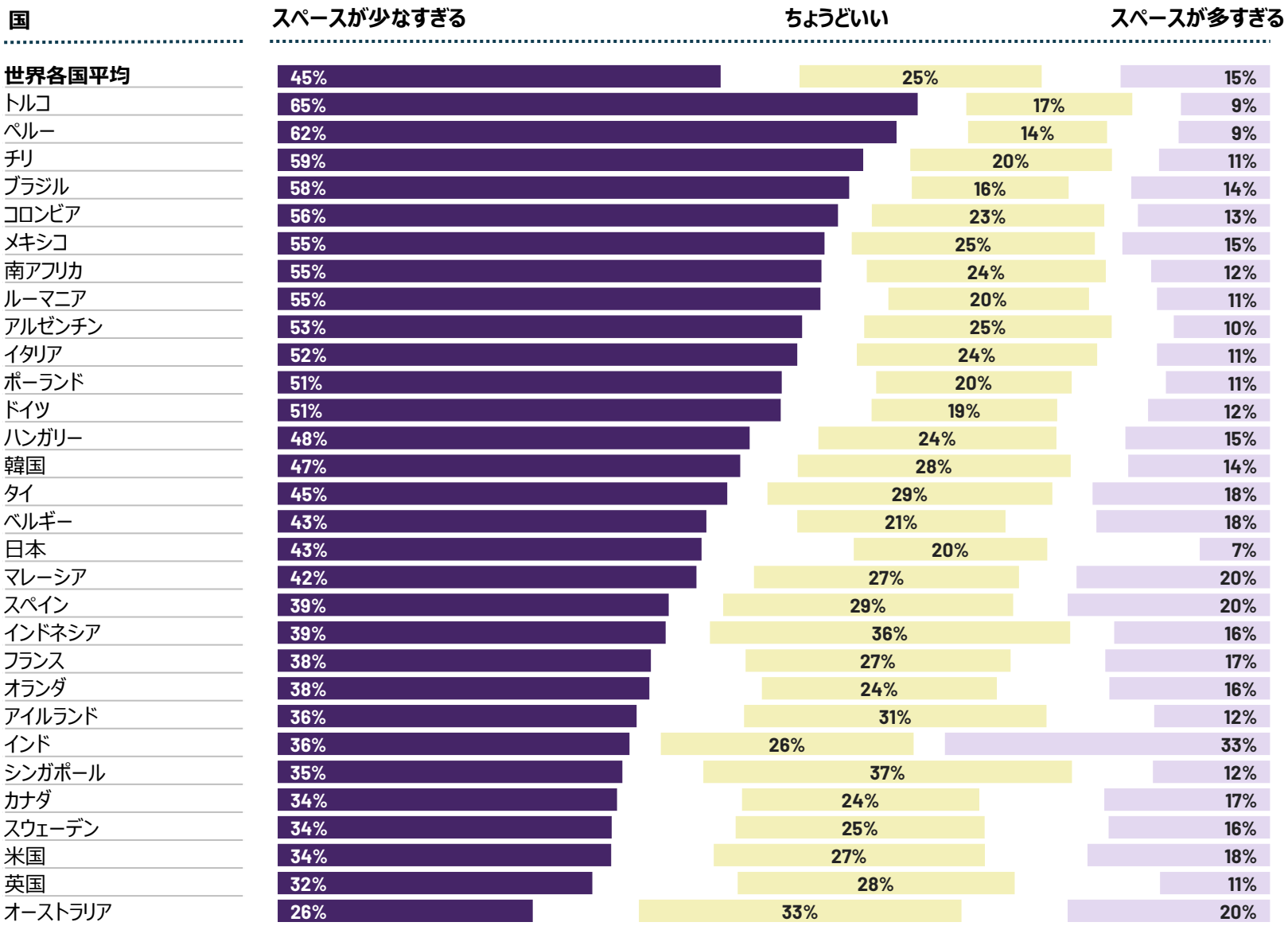


© イプソス教育モニター 2024

自国における学校のカリキュラムが、次の各要素のために用意しているスペースは、多すぎる、少なすぎる、ちょうどいい、のいずれに該当すると思いますか？

- 新しいテクノロジー（人工知能、コーディングなど）

ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

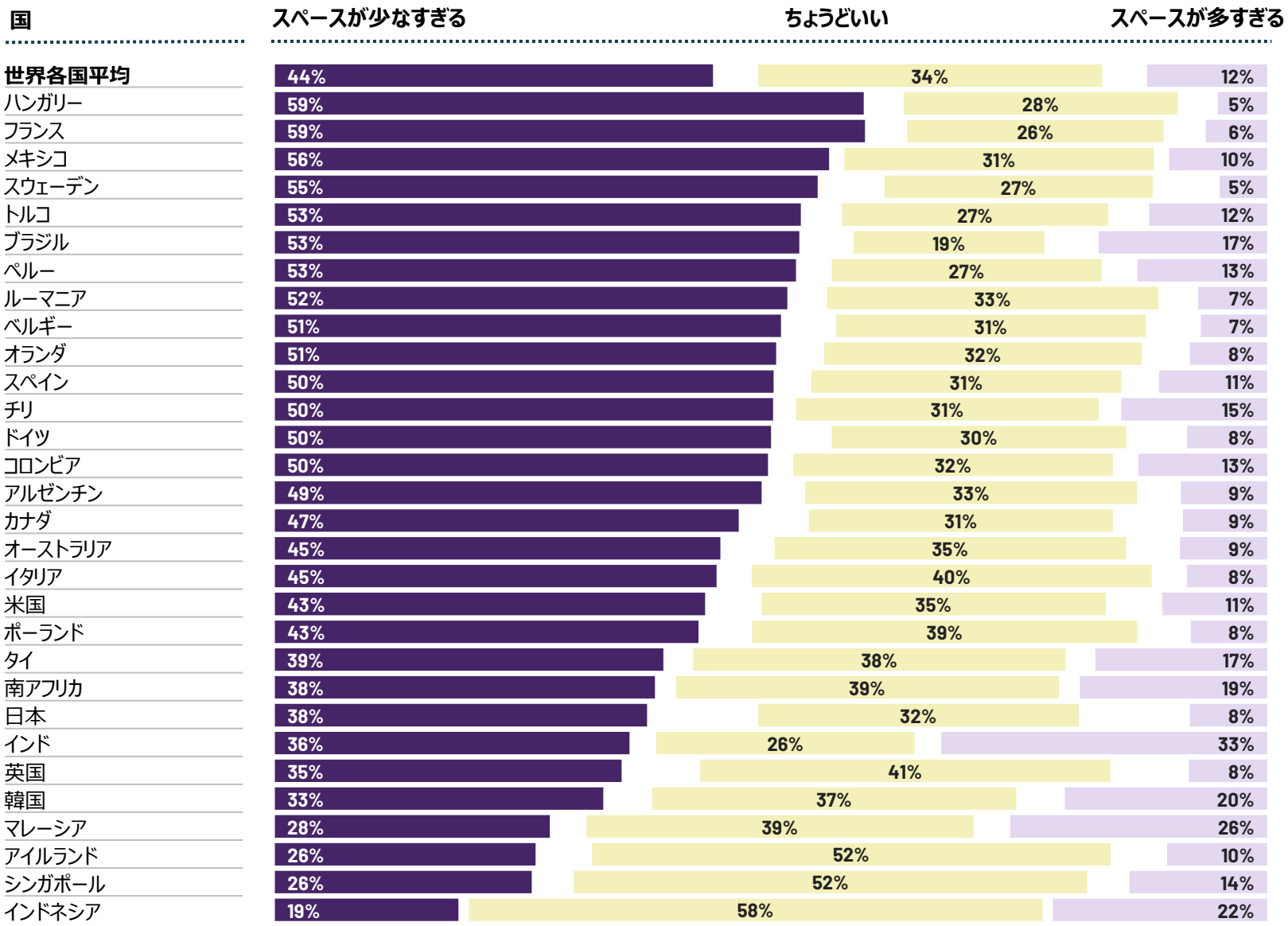


© イプソス教育モニター 2024

自国における学校のカリキュラムが、次の各要素のために用意しているスペースは、多すぎる、少なすぎる、ちょうどいい、のいずれに該当すると思いますか？

- 読書、筆記、計算などの基本的な技術を教える

ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。

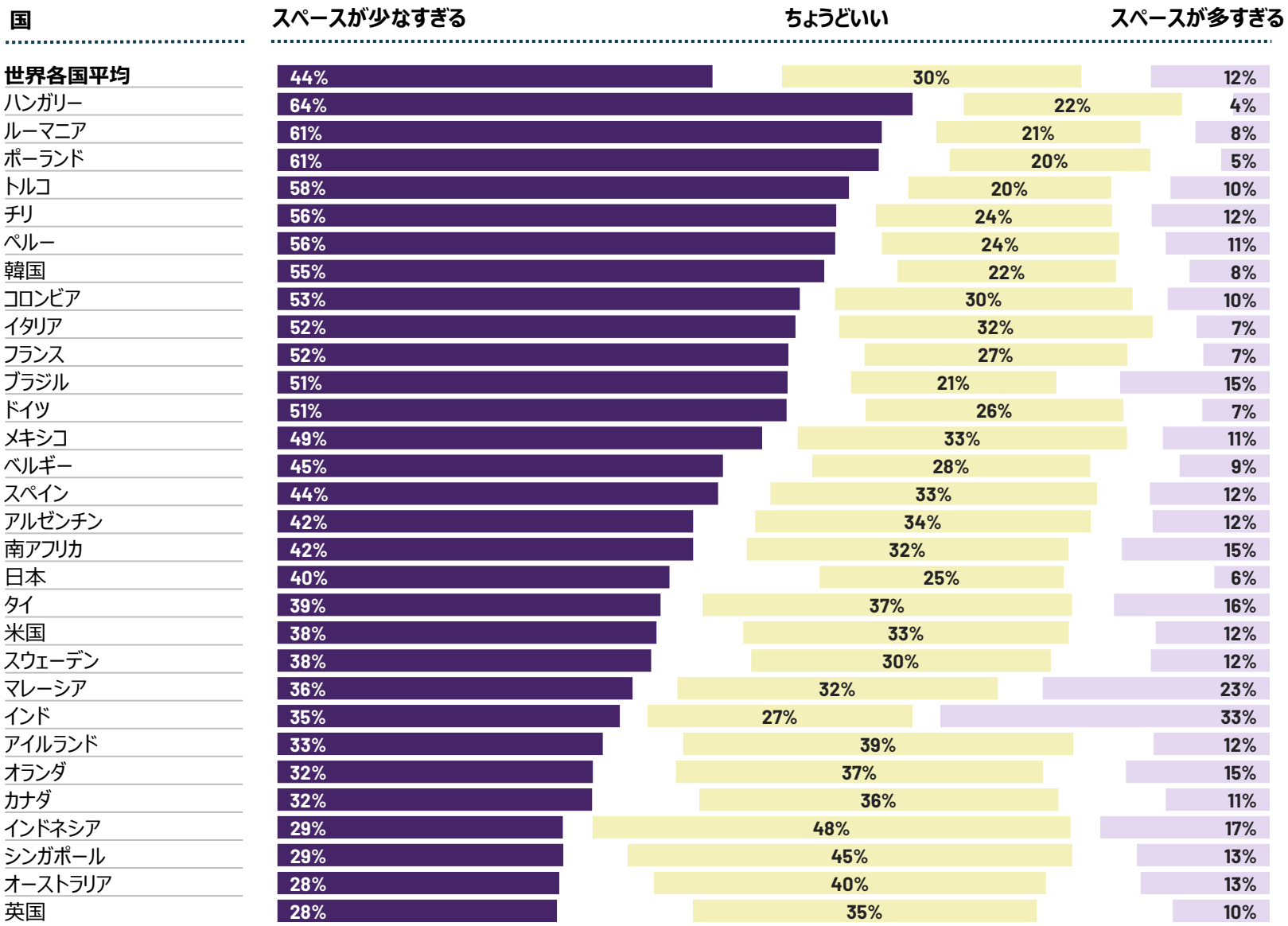


© イプソス教育モニター 2024

自国における学校のカリキュラムが、次の各要素のために用意しているスペースは、多すぎる、少なすぎる、ちょうどいい、のいずれに該当すると思いますか？

- 学生間の協力を促す

ベース:30カ国の75歳未満の成人23,754人。2024年6月21日～7月5日にオンラインでインタビューを実施。



© イプソス教育モニター 2024

調査方法

© Ipsos Education Monitor 2024

調査方法

これらは、イプソスのオンライン調査プラットフォーム「Global Advisor」とインドではIndiaBusプラットフォームで2024年6月21日金曜日～7月5日金曜日に30カ国で実施した調査の結果です。インドでは18歳以上、カナダ、アイルランド共和国、マレーシア、南アフリカ、トルコ、米国の18～74歳、タイの20～74歳、インドネシアとシンガポールの21～74歳、その他の国の16～74歳、合計23,754人を対象に調査を実施しました。

サンプル数は、日本で約2,000人、ドイツとブラジルでそれぞれ1,500人、オーストラリア、カナダ、フランス、英国、イタリア、スペイン、米国で約1,000人、アルゼンチン、ベルギー、チリ、コロンビア、ハンガリー、インドネシア、アイルランド、マレーシア、メキシコ、オランダ、ペルー、ポーランド、ルーマニア、シンガポール、南アフリカ、韓国、スウェーデン、タイ、トルコで約500人となっています。インドのサンプルは約2,200人で、そのうち約1,800人は対面調査、400人はオンライン調査となっています。

アルゼンチン、オーストラリア、ベルギー、カナダ、フランス、ドイツ、英国、ハンガリー、イタリア、日本、オランダ、ポーランド、韓国、スペイン、スウェーデン、米国のサンプルは、その国の75歳以下の一般人口を代表していると見なすことができます。ブラジル、チリ、コロンビア、インドネシア、アイルランド、マレーシア、メキシコ、ペルー、ルーマニア、シンガポール、南アフリカ、タイ、トルコのサンプルは、一般人口に比べて、より都会に住み、教育水準が高く、裕福です。これらの国の調査結果は、より「コネクテッド」な層の意見を反映していると見るべきでしょう。

インドのサンプルは、社会経済クラスA、B、C と、国内の4つのゾーンにまたがる都市階級ティア1～3という、都市人口の大きなサブセットを表しています。

データは、各国のサンプルの構成が最新の国勢調査データによる成人人口の人口動態を最もよく反映するように重み付けされています。「世界各国平均」は、調査が実施されたすべての国と市場の平均値です。各国または各市場の人口規模に合わせて調整されておらず、総合的な結果を示すものではありません。

パーセンテージの合計が100にならない場合、または「差」が実際の計算結果よりも±1ポイント程度大きくまたは小さく見える場合は、四捨五入、複数回答、「わからない」または未回答が除外されている可能性があります。

イプソスのオンライン世論調査の精度は、1,000人の世論調査の精度を±3.5ポイント、500人の場合は±5.0ポイントの信頼区間を用いて計算されています。イプソスが使用する信頼区間に関する詳細については、イプソスのウェブサイトをご参照ください。

本調査結果の公表は現地の規則および規制に従います。

© イプソス教育モニター 2024

詳細情報

Emilie Rochester
Content Manager
Ipsos Knowledge Centre

Emilie.Rochester@ipsos.com

Amandine Lama
Global Lead Public Affairs
Innovation

Amandine.Lama@ipsos.com

© イプソス教育モニター 2024